

研究論文

公文書管理法制度下における文書分類の課題：新たな体系化についての試案

森 本 祥 子

1 はじめに

すでに言い古されていることではあるが、日本の文書管理をめぐる制度は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成 11 年法律第 42 号、以下「情報公開法」）、そして、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号、以下「公文書管理法」）により、大きく整備が進んだ。情報公開法の本質からいえば、当然ながら国の行政情報にアクセスできる道が制度化されたことが最も重要なことであるが、文書に関わる点からみると、行政文書が定義され、それが全省庁に等しく適用されたことのインパクトは非常に大きかった。さらに進んで公文書管理法、とくに行政文書の管理に関するガイドライン（以下、「ガイドライン」）によって各組織の文書管理規則がまったく統一されたことは、それ以上に画期的といえた。国の行政情報にアクセスしたいと考えたとき、どの省庁をみても、公開されている目録の分類も同じ、公開請求の手続きも公開基準も同じ、ということは、今となっては当たり前だが、ほんの 10 年前までは想像できなかった。このように、情報公開法や公文書管理法といった制度により国の文書管理制度の統一基盤ができ、アクセスが飛躍的に向上したことの意義は非常に大きい。

しかし、ここで文書の「分類」ということに注目してみると、この一連の制度整備の中で統一の方向にむかっていった分類手法が、真に文書作成環境での業務効率化や、公開請求への効果的な情報提供につながっているのか、何よりも作成から時間がたち公文書館へ文書が手渡されるときに効果的・効率的の移管につながっているのか、疑問もある。筆者がこの疑問を抱くのは、国立公文書館等として法人文書の移管業務を開始して以来、原課とコミュニケーションをとりながら文書を理解し評価につなげる際に、「分類」を意識したことが、実に一度もないからである。誤解されないよう明記しておくが、このことは原課において文書管理が行き届いていないということの意味するものではない。各業務が文書に適切に反映され管理されていることは、実際の文書を見れば確認できる。単に、文書の作成から評価までの過程で分類が効率化に役立っているとは思われない、少なくとも文書館側では評価選別時に分類を意識することがない、というだけである。

文書を把握するうえで、何らかの構造化が必要であることは言うまでもない。しかしそれは、本当に現行の分類システムが最善なのか。その疑問を起点として、文書を作成・管理する者にとっても、文書の移管を受けてアーカイブズとして再構築して提供する者にとっても、より効率的・効果的な構造化の方法は他にないかということを考えたい。

なお、本稿で述べる東京大学の文書管理実態についての理解や意見は、あくまでも筆者個人が理解した限りのものである。ここで述べることは東京大学文書館、また東京大学の公式見解では一切ないことをあらかじめお断りしておく。制度理解の不十分等、誤りがあればそ

れはすべて筆者個人の責任に帰すものである。

2 日本の近代文書管理に関する先行研究

現在の公文書管理法下の文書管理を考えるうえで、まずはそこに至る明治以来の官庁の文書管理についての研究を確認する。当該分野の研究は、すでに多くなされている。

中央省庁についての研究では、中野目徹氏による『近代史料学の射程：明治太政官文書研究序説』をはじめとする一連の近代文書管理制度についての研究がまず挙げられる¹。同氏はまた、近代中央省庁の文書管理規定を集約した大著『近代日本公文書管理制度史料集：中央行政機関編』も編んでいる²。このほか、省庁のうちでも特に文書管理が早くから進んでいた外務省の文書管理については研究がさまざまにあるが、そのひとつの到達点としては田中正弘氏による『近代日本と幕末外交文書編纂の研究』が挙げられる³。『近代日本公文書管理制度史料集：中央行政機関編』を中野目氏とともに編んだ熊本史雄氏も、外務省文書についての研究を多く出している⁴。また、明治期を中心とする文書管理制度を俯瞰する研究は、渡邊佳子氏が長く取り組んでいることでもあり、その研究成果は数多く、また重要である⁵。さらに、日本の近代文書行政の形が凍結保存されているともいえる台湾総督府文書についても、研究成果が蓄積されている⁶。

他方、地方の公文書についての研究も数多い。これらは主に都道府県の文書館に長く勤務し、明治以来の地方の公文書の実態を熟知している人たちによる研究である。公文書の保存に研究者の視点を持って取り組む人材の増加に比例して研究も充実しつつあるが、中でも代表的な研究者を挙げれば、水野保氏（元東京都公文書館）と太田富康氏（埼玉県立文書館）であろう。水野氏には例えば「明治期地方官における文書管理制度の成立」、太田氏には『近代地方行政体の記録と情報』をはじめとする研究がある⁷。

さらに最近急速に研究が進んでいるのが、とくにアメリカのレコード・マネジメントの日本への導入とその影響についての研究である。その最もまとまった研究成果は、坂口貴弘氏による『アーカイブズと文書管理：米国型記録管理システムの形成と日本』であり、その成果を踏まえてさらなる研究成果も出ている⁸。日本におけるレコード・マネジメントの研究自体は以前から行われているが、それをアーカイブズ学の視点を取り入れて、改めて理論的に迫る研究が進んできたことは昨今の大きな進展といってよい。筆者の問題関心からすれば、もともと明治期以来の簿冊編綴文化に適した分類であったものが、簿冊（真の意味での簿冊ではないが⁹）による管理手法が維持されているところにファイリング・システムの分類理論が入ってきたことが、現在の文書実態と分類体系との「かみ合わなさ」の要因ではないかと考えられることもあり、この分野の研究動向は注目している。

このようにすでに多くの研究蓄積があるものの、各研究の関心のありかは主として文書管理制度全体の確立を明らかにすることである。文書管理の方法論のうちでも、分類がその当時の業務体制をどう具体的に反映していたか、またどのような視点から分類が設定され、それは業務にどのように役立っていたのか（または役立っていなかったのか）、といった個別の

分析は、管見の限りなされていない。本稿では、近代以降の文書管理に関する研究蓄積が多くあることを確認したうえで、具体的に考える素材として、現在の国の独立行政法人文書に係る規則類および実態がどのようになっているかに焦点を当て、課題を整理していくこととする。

3 東京大学における現用文書管理

3.1 独立行政法人における文書の作成と分類に関する規定

東京大学は独立行政法人であるので、公文書管理法に従って文書管理を実施する。内閣府の説明によれば、独立行政法人は、公的性格の強い業務を行っていることから、その文書「管理状況」の国への報告は具体的に義務づけられている一方、「作成・整理・保存」については「個々の独立行政法人等の業務運営や保有する法人文書の性格、内容等も踏まえ、行政文書の規定に準じて適正に管理する」と定められている¹⁰。つまり、独立行政法人の自律性・自主性が尊重されており、また生み出される文書も法人の性格・内容に応じて多岐にわたることも認識されているのであって、そうした独自性が発生文書のバラエティに反映されることは当然としつつ、その管理が適正であること自体は説明できなければならない、ということである。そのため、法の規定が直接適用されるべきものと、行政文書の規定に準じて適正に管理すべきものと、区別されている。

本稿の関心事である「分類をすること」とは、このうち行政文書の規定を直接適用することが求められている事項に含まれる。従って、分類を行うにあたっては「ガイドライン」の規定に従うことになる。この「分類をすること」、あるいはより正確に言えば、「現行の公文書管理法、ひいてはガイドラインで想定されている分類のアプローチ」は、法人文書の場合と同様に行政文書の場合もなんらかの課題を抱えている可能性はあるが、筆者は中央省庁の文書管理については知識がないため、本稿ではあくまでも独立行政法人である東京大学のケースに絞って検討することとする。

文書の作成・管理がどのようになされるべきか、ということについて「ガイドライン」では詳細に規定している¹¹。その手順は以下の通りである。

- (1) 作成又は取得した行政文書について分類し、名称を付するとともに、保存期間及び保存期間の満了する日を設定すること。
- (2) 相互に密接な関連を有する行政文書を一の集合物（行政文書ファイル）にまとめること。
- (3) (2) の行政文書ファイルについて分類し、名称を付するとともに、保存期間及び保存期間の満了する日を設定すること。（「ガイドライン」第4の1）

そして分類設定については、

- ①まず、相互に密接な関連を有する行政文書を一の集合物（行政文書ファイル）にまとめて小分類とし、②次にその小分類をまとめて中分類とし、③さらにその中分類をまとめて大分類としていく（「ガイドライン」第4の2、留意事項）

という考え方が採られている。ファイリングシステムにおけるツミアゲ方式を類推させる。これらの規定が、実際にどのような個別規則に落とし込まれていて、どのように運用されているか、次項で具体例をみていく。

3.2 文書管理規則と実態

東京大学の文書管理については、「東京大学法人文書管理規則」(以下、「文書管理規則」)で規定されている¹²。ここでは特に分類に注目してみていくが、文書管理規則では、文書分類(総表)として、大分類—中分類—小分類が別表2にまとめられている。例えば、「[「国立公文書館等」の指定関係]という文書の場合、

- 大分類：A 管理一般
- 中分類：04 運営
- 小分類：ロ 申請・届出

に位置づけられている(図1、2参照)¹³。

また、この分類は、ここで取り上げた「A 管理一般—04 運営—ロ 申請・届出」という例が典型的なように、これだけでは全く一般的な概念であって、実際の文書を特定することに

➤ ファイル詳細	
ファイル名：「国立公文書館等」の指定関係(平成23年度分)	
保存場所	事務室
分類	A管理一般 04運営 > ロ申請・届出
文書作成取得日の含まれる年度	2011
媒体の種類	紙
文書ファイル等に係る文書管理者	(総務)本部総務課長
文書作成取得日における文書管理者	本部総務課長
保存期間	5年
保存期間の満了する日	2018/03/31
保存期間が満了したときの措置	廃棄
保存期間の起算日	2012
備考	H23-27合冊(H25は文書なし)

図1 「[「国立公文書館等」の指定関係]ファイルの分類等に関する情報

はつながらない。例えば、以下の3種の文書は、すべて「A 管理一般 — 04 運営 — ロ 申請・届出」という分類にあてはめられている文書である¹⁴。

- (1) 「国立公文書館等」の指定関係： 本部総務課
- (2) 「核燃料物質実在庫報告書」： 工学系・情報理工学系等総務課
- (3) 「遠野分室車両使用申請書」： 本部社会連携推進課

ここから明らかなのは、一口に「申請・届出」といっても、施設の設置について内閣総理大臣の裁可を求める一回限りの「申請」から、おそらくは毎年のルーティーンである報告「届出」、さらには学内の軽易な車両使用「申請」まで、まったく同じ分類で扱われることになっている、という点である。文書作成者もさまざまである。文書にはこのように、文書ごとの「役割」に合わせて分類が付されるが、その文書がどのような組織や業務から生じたものかという情報 — コンテキスト情報 — は、現在の分類体系では意識されないし、記録されない。

さらに、その分類体系が個々の文書の具体的取り扱いまで一貫してつながらないという問題もある。個々の文書の保存期間は、大分類 — 中分類 — 小分類とは異なる観点から設定される。上記、「国立公文書館等」の指定関係は、法人文書ファイル管理簿によれば5年保存とされているが、文書管理規則の別表3としてまとめられている「保存期間の基準」をみると、「大分類 — 中分類」の次の段階の分類は「文書の類型」であり、文書分類表の「小分類」と一致しない（図3参照）。その結果、例えば、「A 管理一般 — 04 運営」に含まれる「文

別表2 (第5条関係)									
文書分類(総表)									
大分類	中分類								
	00	01	02	03	04	05	06	07	08
A 管理一般	総括	法令・規則	組織	会議	運営	計画・企画	評価	広報	文書
B 教職員	総括	勤務時間	出張	選考・選挙	任免	給与	服務・表彰	福利	宿舍
C 財務	総括	予算	決算	資金管理	収入	支出	税金等	不動産	
D 施設設備	総括	施設設備	施設管理	施設保全	設備				

A 管理一般						
中分類	小分類					
	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ
00総括	総括	大学史	行事・儀式	埋蔵文化財	公開講座	訪問
01法令・規則	総括	法令・規則	マニュアル	訟務等		
02組織	総括	全学組織	教育研究部局	教育研究部局等の事務組織	附属学校	附属病院
03会議	総括	学外会議	全学会議	部局会議	その他の会議	
04運営	総括	申請・届出	事務改革	引継書	日誌	施設運営
05計画・企画	総括	キャンパス計画	施設計画	中期目標・中期		

図2 文書の大分類—中分類—小分類を規定する文書分類総表 (東京大学文書管理規則別表2より抜粋)

別表3 (第8条関係)

大分類	中分類	文書の類型	保存期間	保存期間満了時の措置	備考
A 管理 一般	00 総括	本学の沿革記録に関するもので重要なもの	30年	移管	
		埋蔵文化財調査関係全般に関するもので重要なもの	30年	廃棄	
		管理一般に関する通知等で重要なもの	10年	廃棄	
		学外会議に関するもので軽易なもの			
	04 運営	法人登記	常用	-	
法令に基づく諸申請(附属病院の開設承認、各種指定医療機関申請、高度先進医療承認申請等)		30年	本学の存立に係る重要なものについて移管		
インターナショナル・ロジック、学生寄宿舎等の入退寮に関するもの					
		申請・届出に関するもの(30年、5年に該当するものを除く。)	1年	廃棄	

図3 保存期間と満了後の措置についての規定 (東京大学文書管理規則別表3より抜粋)

書の類型」のひとつである申請関係文書の保存期間は、「法令に基づく諸申請（附属病院の開設承認、各種指定医療機関申請、高度先進医療承認申請等）」の30年か、または「申請・届出に関するもの（30年、5年に該当するものを除く。）」の1年のみが、規定されている。後者には「5年に該当するもの」がどこか別に規定されているかのように書かれているが、実際にはどの「文書の類型」にも5年保存に該当する申請は定義されていない。つまり、文書の分類は、大分類と中分類については保存期間を設定する基準と対応しているものの、流れはそこでいったん断ち切れ、個々の文書の保存期間設定は現実には個別の状況を勘案して設定されている、ということになる。ここで問題となるのは、最小単位についての保存基準が網羅的でないということではなく、文書をコントロールする分類あるいは体系化（1点のファイルに至るまで）の流れが論理的に一貫していない、ということではないだろうか。冒頭で触れた、文書移管の際に分類を意識することがない、という実態は、このように実際の文書の管理・評価作業にあたって、分類が一貫した基盤となりえていないからではないか。

文書の実態と、文書管理規則に則った分類や保存期間設定とが合致しないことには、もう一つ別の理由による現実がある。ある事案に関わる文書がすべて一つのファイルに綴じられる、という現実である。例えば年に1～2回だけ開催される会議のように、それにかかわる文書発生量が少ない場合、重要度ごとにファイルを分けるのは非現実的であり、結果として、委員会のための会場予約の申請書（1年未満保存）も、開催通知（5年保存）も、議事録（10年保存）も、すべて一冊のファイルに発生順に綴じられる可能性がある。また文書量の多寡とは関係なく、業務の流れを正確に把握するためにはすべてを発生順に綴ることが合理的なため、結果的に単年度内で複数ファイルに分冊されたとしても、すべてを発生順に追込み

で綴じる必要があるという場合もある。

ガイドラインでは、文書は作成時点で文書1件ごとに保存期間を設定し（第4の1の（1））、それらのうち相互に密接な関連を有するものをまとめる（第4の1の（2））ことと続いており、一見この流れはシンプルに見えるが、上記のように異なる保存期間の文書が一つのファイルに綴じられる可能性を考えると、実はこの二つの工程は常に単線でつながり得るわけではないことがわかる。

ガイドラインが指定しているように、文書は年度単位でファイリング用具を分け、かつ単一の業務の中でも保存期間が異なるものはさらに分けて綴じるようにすれば、ガイドラインをそのまま適用することは可能である。しかしそれを実行すれば、それはファイリングシステムになるのであって、事業毎にファイルをたてて文書を集約する簿冊型文書管理には馴染まない考え方である。それでも敢えてガイドラインどおりに物理的に文房具を分けて文書を管理していくとすれば、文房具が大量に必要となるだけでなく、参照すべき文書が分散してしまい、日々の業務の遂行がかえって非効率的となる可能性もある。すなわち、現在の制度は、事業単位で関係文書を綴る文書管理手法が定着しているところに、文書1件単位での管理を前提とするファイリングシステム的な管理手法をあてはめようとしているものであり、ルールを遵守することが必ずしも文書管理の効率化につながらないばかりか、そのルールと実態との間の齟齬をつなげるための「管理のための管理」「分類のための分類」といった負担が生じているといえる。

そしてそれだけの手間をかけている一方で、文書を理解するうえで不可欠なコンテキスト情報が分類体系から得られる情報には含まれていない、という問題を抱えている。コンテキスト情報は、文書が作成部署で使われている限りは、その必要性が意識されることはほとんどない。暗黙知として共有されているからである。しかし、「どのような業務の過程で、何を記録するために作成したのか」というコンテキスト情報が可視化されていなければ、それが暗黙知で通用していたコミュニティを離れた瞬間に、その文書は意味を失いかねない。

文書分類という考え方自体は、先述の研究史の整理の中で触れたとおり、本来的な簿冊編綴の伝統においても採用されていたことである。例えば、明治4年から戦後にかけて作成され続けた東京大学の「文部省往復」という文書シリーズは原課において「庶務課A」という分類を付しており、「官庁往復」は「庶務課B」とされていた。つまり、組織改編がそれほど頻繁でなく事務もそれほど大きく変わらずに長期安定していた時代には、文書を作成した組織を大枠としてその中で文書を系統立てるといった分類手法、言い換えればフォンドを頂点とする体系化が自然となされ、かつそれが十分有効であったのであり、それによってコンテキストが維持されていた¹⁵。しかし組織改編が頻繁になってゆくと、文書の組織間移動の可能性が高まり、現実的対応として作成組織との紐づけを切るかたちで文書のみにも焦点を当てた分類が設定されるようになったと推測される。そしてその一方で、コンテキスト情報を拾い、そこに文書を紐づける方策が脱落した。コンテキスト情報が原課にとっては暗黙知であったがゆえに起こった事態といえよう。

近代初期から存在し機能していた文書分類が現在の形に変わってくるまでの経緯について、筆者は大まかに上記のように推測するが、それを各時代の文書管理規則や分類体系を確認しながら検証することは、それ自体が大きな研究課題であり、本稿の一部として論述する規模を超える。よってここでは、洗練されてきたガイドラインにおける分類が、現時点では文書管理を支援するツールとなっていないという指摘にとどめ、文書の作成から廃棄／移管、その後の文書館での活用まで一貫し、それぞれの段階に関わる関係者の業務効率化をサポートするような文書の構造化にはどのような方法がありうるかを、次に考えたい。

4 コンテキスト反映型体系化の試み

4.1 リテンション・スケジュールというアプローチ

文書発生量が膨大で組織改編が頻繁にある、というのは現代の組織活動において世界共通の状況である。そうしたなかで、文書管理からアーカイブズ管理への流れは、1点ごとの文書単位ではなく業務単位とすることが現実的であるというのが、現在の一般的な考え方となっている。そのアプローチのいわば基本管理台帳が、リテンション・スケジュールである。図4に掲げるのは、そうしたリテンション・スケジュールの一例である¹⁶。

ここでは、第一に機能 (function) を大分類、その下の具体的な業務 (business area) を中分類として組織活動全体を構造化したうえで、その下に個別文書をリストアップして個々の文書のリテンション (何年間現用として保存するのか、その先は移管か廃棄か) まで、一貫して整理されている。保存期間の設定や評価は文書単位でなされているものの、その前提である「どの文書がどの機能・業務から発生したのか」という全体の中での位置づけは可視化されている。

UNIVERSITY OF EDINBURGH					
RECORDS RETENTION SCHEDULE					
Function:	General Council				
Business areas:	Administration of General Council business				
Reference	Description	Disposal	Timing	Trigger	Notes
	Academic Standing Committee, agendas and papers	Archives	7 years	After end of current year / current academic year	
	[named individual], various correspondence	Archives	7 years	After end of current academic year	Golden copy
	Alumni, correspondence re Queen's Birthday Honours List, etc	Destroy	7 years	After end of current year / current academic year	
	Alumni Services Group, papers	Destroy	2 years	After end of current year / current academic year	The golden copy is held by Development and Alumni
	Alumni Forum, papers	Destroy	2 years	After end of current year / current academic year	The golden copy is held by Development and Alumni
	Ancient Universities (Correspondence with other three General Councils and minutes of joint meetings)	Archive	7 years	After end of current academic year	

図4 エジンバラ大学のリテンション・スケジュール (抜粋)

このアプローチであれば、文書作成者は自分が担当している業務とそこから発生する文書が、リテンション・スケジュールのどこに位置するかを即座に理解でき、保存期間とその先の処理を設定することもほとんど困難がない。また文書の移管を受けるアーカイブズでも、受け取る文書がどのような業務から発生したものを改めて分析する手間も不要となる。つまり、このように業務と文書の構造化とその関係性の可視化がなされていれば、文書の作成から評価選別までの文書管理の効率化とアーカイブズにおける適切な文書理解が実現できるのである。

公文書管理法体制下でも、レコード・スケジュールという概念を採用し、文書作成の早い段階から全体をコントロールするという考え方が取り入れられたことは大きな進展であった。しかし本稿前半でみてきたように、そこにおいて、業務ベースで全体を構造化するという視点、また業務と文書との紐付けを可視化するツールが組み込まれていないことが、現場での文書管理実務の一貫性を滞らせている一因と考えられる。レコード・スケジュールでも、文書作成者は個々の文書を該当する分類基準に当てはめることは可能であるが、そのときに業務との紐付けが自動的になされるか否かが、ここで取り上げているリテンション・スケジュールのアプローチとの根本的な違いである。

次に、こうした形の文書管理のあり方を現状の東京大学で取り入れるとすればどうなるか、ということを考えてみる。

4.2 業務分析

業務分析をするための基本情報は、組織構造と各組織の担当業務についての情報である。東京大学の場合、文書作成組織ごとの基本的な所掌事務については、本部事務組織および部局単位の「所掌事務規程」に定められている¹⁷。これらの所掌事務一覧を年度ごとに網羅することによって、各組織単位でどのような業務を担当しているかということの大枠は把握できる。業務によっては一覧での項目では大きくくりすぎる場合もあり、例えば、入試課の事務では「学部入学試験の実施」とのみ規定されているが、実際には学部入学試験は複数行われており（2019年度入試であれば、推薦入試・一般入試・外国学校卒業学生特別選考）、また時期によって入試の種類が異なる（以前は前期日程と後期日程に分かれていたが、現在は推薦入試と一般入試に分かれている）など、発生する文書を理解するうえでは、所掌事務一覧に機械的に当てはめるだけでは不十分なものもある。

したがって、所掌事務規程による分類を基本にしつつ、各文書作成組織にヒアリングをすることなどを通じてより詳細な業務のあり方を明らかにすることにより、文書発生実態と結びつく具体的な業務単位が明らかになる。東京大学で行っているような、事案ごとにファイルを立ててそこに関連文書を綴っていく文書管理方式の場合、ファイルタイトルから、それが所掌事務一覧のどれに該当するかを理解することは難しくない。つまり、所掌事務一覧の項目単位を上位の分類とし、実際の文書発生単位に直結する細分化された事務を下位の分類と設定し、文書を構造化することは比較的容易であると考えられる。

ここまでで、組織を基点として「どのような業務がなされ、どのような文書が発生したか」を把握することはできた。しかし、組織は改編されるのが常であるため、組織との結びつきを固定化する方法では文書の連続性を表現することがかえって困難である。例えば、「役員会、経営協議会、教育研究評議会、研究科長・学部長・研究所長合同会議、補佐会、役員懇談会、センター長会議等の運営整理」という事務は、2017年度までは企画課が所掌していたが、2018年度に組織改編があり、経営戦略課が所掌することとなった。このとき、「企画課」を基点に文書を構造化してしまうと、2017年度までの文書と2018年度以降の文書をつなげるのに、新たなツールが必要になる。しかし、「役員会運営」という事務自体は変わらず、そこで作成される文書も同じであるので、「役員会運営」という事務とファイルを管理の中心に据え、その作成者が時期によって企画課であったり経営戦略課であったりした、と考えればよい。つまり、作成者情報を業務・文書から切り離すことで、文書中心の管理がしやすくなるのである。「組織分析」ではなく「業務分析」が重要となるゆえんである。

4.3 シリーズ・システムの適用試行

このように、業務およびそれに紐づく文書と、作成組織とを切り分けて情報管理する、という考え方は、すでにイギリス国立公文書館では実践されていた。カレント・ガイド (Current Guide) という検索ツールである。詳細は省略するが、そこでは文書の塊 (シリーズに該当) についての解説と、組織についての解説とを別個に記述したうえで、利用者各自が、用語索引を手がかりに個々の記述を自分なりに結びつけて文書発生状況を再現する、という方法が採られていた¹⁸。他方、オーストラリア国立公文書館では長い試行錯誤の末に、アーカイブズ管理の中心を文書実態におき、作成者情報をはじめとする他の情報は、個別に作成する情報どうしのリンクによって管理するという、類似の発想を確立させた。オーストラリアで確立したこのシリーズ・システムというアプローチについて、イギリスの発想が元になったという明確な分析は今のところ見当たらないが、オーストラリアの文書管理の起源はイギリスにあるのであり、両者が共通する合理的アプローチにたどり着いたとしても不思議はないだろう。

図5は、オーストラリア国立公文書館が整理した、シリーズ・システムの概念図である¹⁹。従来の考え方では、文書作成者 (フォンド) を一番の大枠としてその中にすべての文書を階層構造化してはめこむ、というアプローチであったが、文書作成者と文書実態との関係は一定ではないという現実をふまえ、文書群 (Series) 情報を中心に据え、その直接の作成者 (Agency) 情報や文書群に含まれる1点ごとの文書 (Item) 情報、あるいは作成者が組織内で担う機能 (Function) 情報を、それぞれ独立した情報として記述し、関係するものをその都度情報のリンクによってつなげるというかたちに、整理したものである²⁰。

言うまでもなく、東京大学では、アーカイブズでのシリーズ・システムを可能にするような、こうした発想を視野に入れた現用文書管理はしていない。しかし現用文書管理をシリーズ・システムに対応させることは、実は現行制度の拡充で対応可能であり、まったく新しいアプ

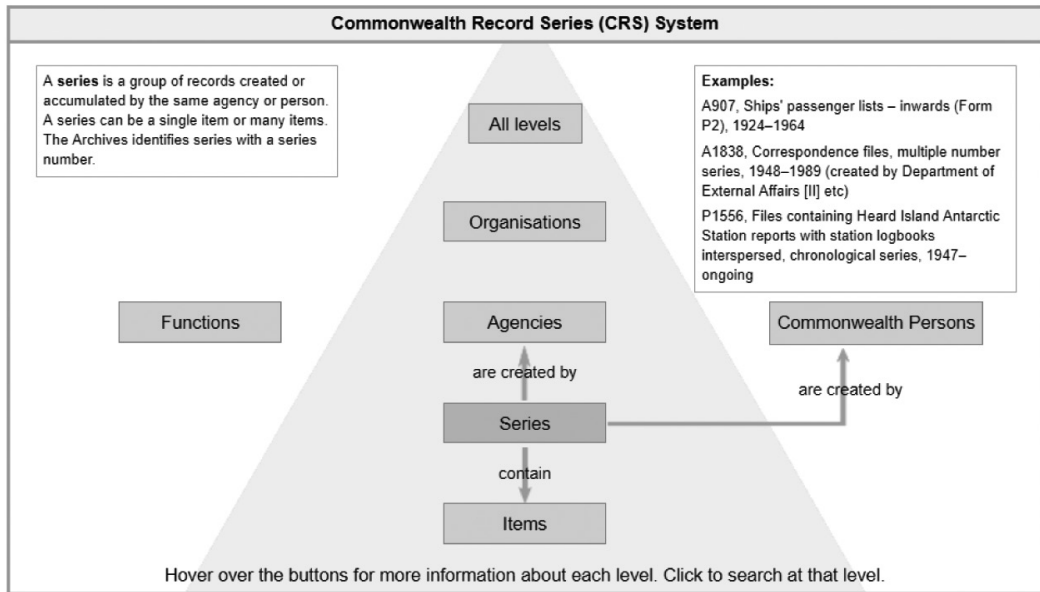


図5 シリーズ・システムの構造図 (National Archives of Australia, RecordSearch ページより)

ローチが必要になるわけではない。前項でみたように、現行の所掌事務規程に書き上げられている大括りの担当業務の書き上げを、文書シリーズと対応する程度の精度の項目立てに調整すれば、現用段階でシリーズ設定が実現する。このとき、どの程度の精度で業務を書き上げるかということについて、文書管理主管課である本部総務課と文書館とが大学全体のバランスを見て指導・支援する。設定された業務＝シリーズにIDを付与して管理すれば、文書館への移管時にはすでにシリーズ設定がなされていることから、文書館での整理の迅速化が図れ、かつ作成時の状況をより正確に反映したかたちで文書が構造化できる。このように、所掌事務規程を基礎にすれば、現用段階でのシリーズ設定は可能と考えられる。

現用文書管理からの連続性がシリーズ・システムの大きな利点であるので、本来ならば上記のとおり現用文書管理のアプローチを整備してから文書館での管理につなげるべきである。しかし現行制度上、文書館は現用文書管理にコミットできないため、現段階では文書館移管後の特定歴史公文書等について、シリーズ・システムを意識した構造化と記述を試みている。まだ全体構造の整理は十分ではなく、文書が作成組織にぶら下がる階層構造を示している点をいずれ改善しなければならないが、文書の基本管理単位は文書シリーズにするという点で、シリーズ・システムの基本的アプローチを採用している。例えば典型として、「文部省往復」という文書シリーズの場合、当館所蔵分だけでも明治4年から昭和37年まで連続して作成されて保存されているが、その作成者は東京大学ですらない前身校（大学南校、南校、開成学校）から、旧東京大学、帝国大学、東京帝国大学、東京大学と、変遷をたどる。学内の担当部署まで含めれば、さらに数が多い。一方で文書実態はといえば、業務の担当部署が変われば文

書も共に引き継がれて複数の手を経て文書館にたどり着いているが、組織変遷にもかかわらず一貫した形を保っている。つまり、現用での管理も、文書館での編成も、業務遂行上自然な形で発生する文書シリーズを生かして行うのが最も実態を反映し、かつ合理的だといえる。シリーズ・システムを適用するのは、海外の事例を日本に単に輸入しているのではなく、これが現代日本の組織においても最も合理的であるから、それを採用するのである。

現在は、文書館に移管された文書について改めて一から編成し目録記述を作成しているが、これは文書館独自の構造化や分類を創出しているのではなく、現用時の管理体系を復元しようとするものに過ぎないのであるから、前項で例をみたりテンション・スケジュールのような文書作成時からの一貫した管理体系を確立し、その構造を引き継げば、文書作成者にとっても文書館にとっても管理労力が大幅に削減でき、同時に文書を恣意的に扱う可能性がなくなるため、文書の適切な管理も実現できる。

例えば、入試を実施するという機能について考えてみる。引き継いだ文書体系を表現するため、要素ごとにIDを付すこととし、まずは「学部入試」という機能にIDを与える。

学部入試 = FN0001 (FN は function = 機能の略)

東京大学における入試のあり方や制度の変遷などは、ここで説明される。

いっぽう、そこで発生する具体的業務 = 文書シリーズを特定し、やはりIDを与える。

入試監理委員会運営 = S0001 (S は series = シリーズの略)

入試教科委員会運営 = S0002

推薦入試実施 = S0003 …etc.

そのうえで、個々の文書についてアイテムIDを付していく。このとき各文書がどの機能や業務と結びついたものかということを機械的に示すため、以下のように各IDを結合させたものをアイテムIDとする。

「推薦入試実施 平成29年度」というファイルのID = S0003/0001

保存期間や満了時の処置についてもこの流れに載せる。例えばS0003という文書シリーズは5年保存のち移管、といった具合である。リテンションの設定は基本的にはシリーズ単位であるが、ファイル単位 (= アイテム・レベル) が望ましいのであれば、それで設定してもよい。

さて、ここまでの管理では、文書作成者についての情報が紐付けられていないが、これは敢えて業務や文書と切り離して記録化すべきことである。例えば入試業務は、100年にわたって常に「入試課」という名前と位置づけの組織が実施してきたわけではないことから明らかにおり、大学全体の規模やその時々当該機能の重要度によって担当組織の名称や位置づけは変わるため、その事態に対応できる柔軟性を持つためには、切り離すことが必要なのである。従って、個々の組織にも例えば入試課 = A0001 (A は agency = 作成組織の略) のようにIDを付し、各組織についての記述は別途作成しておく。これは組織規則や所掌事務規程に基づく記述を文書館側で作成・維持しておくこととなるだろう。

以上のようなアプローチが、現在の分類基準の考え方と決定的に異なる点を整理すれば、

第一に文書を生み出す業務と文書が紐付けられていること（＝文書がコンテキストから切り離されない）、そして第二にあらかじめ分類体系が定められて「いない」こと、である。前者の重要性についてはすでに詳述したのでここでは繰り返さないが、改めて先に例に挙げた「A管理一般—04 運営—口 申請・届出」という分類を見ると、この分類が抽象的・一般的であり、具体的業務とのつながりを持たせることが意識されていないこと、文書の役割面のみに基づく分類が想定されていることが、理解されるだろう。

後者について説明を足すと、現在の分類基準の適用という方法では、文書作成者は自分が作成している文書が「分類表のどこに当てはまるのか」を探すが、そのときそこで適切な分類がない場合には、無理に既存の枠組みに当てはめるという行為も起こり得る。全く新しい業務や取組が始まり、文書が作成されるようになったとき、本来ならば分類基準を更新していくのだが、分類体系が固定化されているところに新たな分類項目を入れることは必ずしも容易ではない。つまり、結果として文書を分類する過程で不自然な、あるいは恣意的な、整理がなされかねない。本来は文書を適切かつ効率的に管理するための分類であるはずが、実際には意図せずして文書の本質を曲げるために機能する危険性も持ちかねないのである。分類という固定化された枠組みではなく、新たに業務が発生したり文書シリーズが発生したりしたときには、その機能やシリーズを組織活動の中に適切に位置づけ、それを記述することで構造化するというアプローチを採れば、文書の体系化は柔軟性をもち、しかも恣意性が排除されて適正な管理につながる。

4.4 課題と展望

以上見てきたように、業務分析を実施し、業務遂行に適したファイリング方法を採用し、文書と業務を紐付けてID管理する、という方法を採用することのメリットは明らかである。

しかしその一方で、現状では導入にあたっては課題があることも事実である。第一に、業務分析に相当の手間がかかることがあげられる。多くの組織では、所掌事務の書き上げはなされていると考えるが、それは大まかな業務のくくりの程度にとどまるのが一般的であり、その段階から組織全体について一定の水準で文書発生単位につながるように揃えて書き出していくことは、相応の手間がかかる。そしてそこから導き出されるのが第二の課題であるが、そうした業務分析を組織全体にわたって一律の水準で実施するには専門知識が必要であるため、レコード・マネジャーやアーキビストを専任で配置することが必要であることである。多くの場合、総務系の部署の職員が文書管理「も」担当業務の一つとしてこなすことが一般的ななか、いかにニーズがあったとしても、現用文書管理のために専門家を専任で配置する体制に移行することは、現時点では困難である。第三に、公文書管理法下の組織にとっては、当然ながら現行の公文書管理法の規定する方法の遵守が必要のため、かりに前項で試みた業務分析に基づく体系化を採用したとしても、所定の分類基準ベースの管理方法に準拠することも引き続き必須である。この両者をともに満たすような管理体系を構築するための当面の手間はかえって増大することである。

しかし、以上の課題はいずれも手法切り替え時の一時的負担であり、特に第一の課題は、前述のとおり理論的に新たなアプローチが必要なものではないため、対応のためのスケジュールと支援体制をはっきりさせれば、実現可能である。長期的な負担軽減と適正な文書管理の両立を目指すとき、導入時の負担増を飲み込んでも、業務に紐付けた文書管理という手法に移行することは十分なメリットのあることである。

5 おわりに

東京大学文書館に保存されている明治以来の公文書には、東京大学と文部省との間の文書のやりとりを集めた「文部省往復」、文部省以外の諸官庁とのやりとりを集めた「官庁往復」、学内の部局とのやりとりを集めた「学内往復」などの文書群（シリーズ）がある。例えば「文部省往復」には、東京大学の設置を通達するような重要文書から、お雇い外国人教師への賞与付与の伺といった小さな案件まで綴じられている。現在の組織の運営の感覚からすればおかしいのだが、この編綴自体が逆に当時の業務のあり方を浮かび上がらせるものともいえる。すなわち、大学設置に伴う対処と外国人教師の賞与支払いはその学内での具体的処理は別々の業務であっても、一方でこれらの案件は等しく文部省の承認や指示が必要だったのであり、その意味で大学としては「文部省の承認が必要な案件は間違いなく手続きを踏んでおり、その証拠をまとめて綴って保存する」という業務上の必要性があったということ、文書のかたちが示している。このように、文書はその時々での組織の業務の仕方を反映するものであり、アーカイブズはその文書が生み出された環境を理解し、それが再現されるように支援しなければならない。すでにコンテキスト情報が失われている過去の文書はアーカイブズで分析・再現せざるを得ないが、現用のコンテキストが把握可能な文書については、現用段階の文書構造や体系をリアルタイムで可視化し引き継ぐことが、最も無理・無駄なく現用時の環境を継承することではないだろうか。

20世紀前半のイギリスのアーカイブズ理論家ヒラリー・ジェンキンソンは、文書が作成されてからアーカイブズでの管理に至る一貫性が重要であることを説き、ややもすればアーカイブズが受け身に過ぎると批判されるほど、文書作成者の文書管理意図を尊重することを主張した。それはジェンキンソンが「唯一の正しい編成基準は、文書が作成された時の業務目的を明らかにすることである」と述べていることに端的に表れている²¹。アーカイブズにおける評価選別や編成についての議論は多くあるが、組織活動の変遷がますますスピードアップし、かつ電子文書の普及により文書の作成からアーカイブズでの保存までの一貫した管理の重要性が改めて見直されている現在、100年近く前のその指摘は改めて本質を突いていることに気づく。

本稿では、現在の分類基準に従った管理手法の問題点の解決のために、全く異なるアプローチを考えたが、今後は改めて現行制度との現実的調和の可能性を探り、具体的な業務改善につながる方策を模索したい。

註

- ¹ 例えば、『近代史科学の射程：明治太政官文書研究序説』（弘文堂、2000年）、『公文書管理法とアーカイブズ：史料としての公文書』（岩田書院、2015年）のほか、多数の論文がある。
- ² 中野目徹・熊本史雄編『近代日本公文書管理制度史料集：中央行政機関編』、岩田書院、2009年。
- ³ 田中正弘『近代日本と幕末外交文書編纂の研究』、思文閣出版、1998年。
- ⁴ 例えば、「外務省記録の内的秩序とその変化：大戦間期外務省における記録管理制度とその運用をめぐる補遺 大戦間期対中国外交史文献目録」（『駒澤史学』80号、2013年）、「『近代史科学』の構築へ向けて」（『近代史料研究』16号、2016年）。
- ⁵ 渡邊佳子「明治期中央行政機関における文書管理制度の成立」（安藤正人・青山英幸編著『記録史料の管理と文書館』第4章、北海道大学出版会、1996年）、渡邊佳子「日本近代における公文書管理制度の構築過程」（安藤正人・久保亨・吉田裕編『歴史学が問う公文書の管理と情報公：特定秘密保護法下の課題』、大月書店、2015年）など。なお渡邊氏は、2017年に「日本における戦前期統治機構の文書管理の基礎的研究：近代的アーカイブズ制度成立の歴史的前提」により学位（博士（アーカイブズ学））を取得している。
- ⁶ 檜山幸夫『台湾総督府文書の史料学的研究：日本近代公文書学研究序説』（ゆまに書房、2003）、中京大学社会科学研究所台湾史研究センター編『台湾総督府文書の史料論』（創泉堂出版、2018年）など。
- ⁷ 水野保「明治期地方官における文書管理制度の成立」（安藤正人・青山英幸編著『記録史料の管理と文書館』第5章、北海道大学出版会、1996年）、太田富康『近代地方行政体の記録と情報』（岩田書院、2010年）。
- ⁸ 坂口貴弘『アーカイブズと文書管理：米国型記録管理システムの形成と日本』（勉誠出版、2016年）。さらに新たに出版されたものとしては、高山正也（監修）・壺阪龍哉・齋藤柳子・清水恵枝・渡邊佳子著『文書と記録：日本のレコード・マネジメントとアーカイブズへの道』（樹村房、2018年）がある。
- ⁹ ここで「真の意味の簿冊ではない」と言うのは、この現代的方式が編綴を経る本来の簿冊とは異なるからである。本来の簿冊編綴では、一件ごとの文書を年度が終わってから重要度などを踏まえて分類しまとめていく。しかし「現代的」なやり方はその過程を経ず、文書作成と同時にファイルに綴じこまれていくもので、そのファイルの立て方は文書作成者の裁量に任されるなど、文書主管担当者の手を経ないことが一般的となっている。つまり本来の簿冊で行われていた一定の選別や分類という作業が発生しない。現代のファイルの作り方も一般には簿冊形式と称しているが、その本質が違うことは理解しておく必要があるだろう。
- ¹⁰ 内閣府のウェブサイトの「法人文書の管理」ページの記載に基づく。（<http://www8.cao>）

- go.jp/chosei/koubun/about/shikumi/h_bun/h_bun.html) (アクセス日:2018年9月30日)
- ¹¹ 行政文書の管理に関するガイドラインは、平成29年12月26日改正版を参照する。
- ¹² 東京大学法人文書管理規則は、平成30年4月1日施行版を参照する。(https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/reiki_honbun/au07402961.html) (アクセス日:2018年9月30日)
- ¹³ 東京大学法人文書検索サイトよりアクセス (https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/disclosures/public03.html) (アクセス日:2018年9月30日)
- ¹⁴ 法人文書ファイル管理簿の記載情報は、東京大学ウェブサイトに搭載されている「法人文書検索」システムで公開されている。
- ¹⁵ 厳密に言えば、「文部省往復」というような簿冊編綴の仕方は、業務に従った編綴ではなく、文書のもつ役割に拠ったものである。したがって、さらなる分析にあたっては、文書の編綴ルールの変遷と、できあがった文書の体系化の変遷との双方を検証しなければならない。
- ¹⁶ エジンバラ大学リテンション・スケジュールのうち、各種委員会事務業務部分 (https://www.ed.ac.uk/files/imports/fileManager/GeneralCouncilRetentionSchedule.pdf) (アクセス日:2018年9月30日)
- ¹⁷ 「東京大学規則集 第9章 事務組織及び所掌事務」に各規程が掲載されている。(https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/kisoku_mokuji_j.html) (アクセス日:2018年9月30日)
- ¹⁸ 拙著「アーカイブズ編成・記述の原則再考: シリーズ・システムの理解から」(国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』(思文閣出版、2014年)所収)に、若干のカレント・ガイドの説明をしてある。
- ¹⁹ オーストラリア国立公文書館の文書検索システムのページより引用。(https://recordsearch.naa.gov.au/SearchNRetrieve/Interface/SearchScreens/AdvSearchMain.aspx) (アクセス日:2018年9月30日)
- ²⁰ The CRS Manual: Registration & description standards for the Commonwealth Record Series (CRS) System (https://recordsearch.naa.gov.au/manual/Introduction/CRSIntroduction.htm) (アクセス日:2018年9月30日)
- ²¹ Hilary Jenkinson, *A Manual of archive administration: Including the problems of war archives and archive making*, Oxford: The Clarendon Press, 1922, p. 80.

所蔵資料紹介（特定歴史公文書等）

東京大学「紛争日誌 その1」

秋山 淳子・星野 厚子・村上 こずえ

「紛争日誌」および関連資料の概要

本稿で紹介するのは、東京大学による大学紛争の経過記録「紛争日誌」である。当館では「紛争日誌」およびその関連記録として、以下の7点を所蔵している（写真1および表1参照。以下、総称して《「紛争日誌」資料群》とし、各資料は表中の記号A～Gにより表記する）。これらは1968（昭和43）年3月から翌69年3月にかけて、大学本部の庶務部内（企画掛か）で作成されていた、学内を中心とする学生運動の詳細な記録である。東京大学の罫紙に手書きされた分刻みの情報は、当時の学内状況の公式記録としての役割があったと想定され、現在これらは複製も含め、S0032：庶務部委員会関連資料に含まれる6点（A～F）と、S0308：法規掛収集学生運動関係資料の1点（G）から構成されている。

表1 「紛争日誌」および関連資料

記号	参照コード	タイトル	年代域
A	S0032/SS09/0122	紛争日誌（その1）	1968（昭和43）年3月12日～7月2日
B	S0032/SS09/0123	紛争日誌（その2）	1968（昭和43）年7月3日～10月31日
C	S0032/SS09/0124	紛争日誌（その3）	1968（昭和43）年11月1日～12月16日
D	S0032/SS09/0125	紛争日誌（その4）	1968（昭和43）年12月17日～1969（昭和44）年3月26日
E	S0032/SS09/0126	紛争日誌（その1）	1968（昭和43）年3月12日～7月2日
F	S0032/SS09/0144	〔紛争日誌の手書き原稿〕	1968（昭和43）年3月12日～1969（昭和44）年2月28日
G	S0308/SS001/001	学内紛争状況	1968（昭和43）年12月17日～1969（昭和44）年3月15日

S0032のA～Dは、簿冊の製本型式・タイトル表記において共通の体裁をもち、後継所管課で一連のシリーズとして扱われていたことをうかがわせる（写真3）。これに対し、Eは基本的にAと同期間・同内容であるが製本・タイトル表記ともやや簡易な体裁であり、Fは未製本のバラ原稿の状態である。ここから、所管課においてはA～Dを《正本》、E・Fは《副本》と位置づけていたと推測された。現在の編成・目録記述はこれをふまえたものである。

一方、Gは上記S0032の資料群とは出所を異にし、「七学部代表団との確認書」、「資料」、加藤総長代行から坂田文部大臣あての報告書、ビラ類などともに、庶務課法規掛作成の学生運動関係資料に含まれていた。そのためほぼDと同期間・同内容でありながら、タイトルも「学内紛争状況」とされており、A～Fとは異なる作成・保管経緯であることが明らかであった。これをふまえ、GのみがS0308にシリーズ編成されている。

「紛争日誌」の構造 ー情報体系と作成経緯ー

次にこれらの「紛争日誌」資料群について、相互の複製関係やナンバリング等の付随情報

写真1 「紛争日誌」資料群

(左より背表紙A・B・C・D・E・G、右下がF)

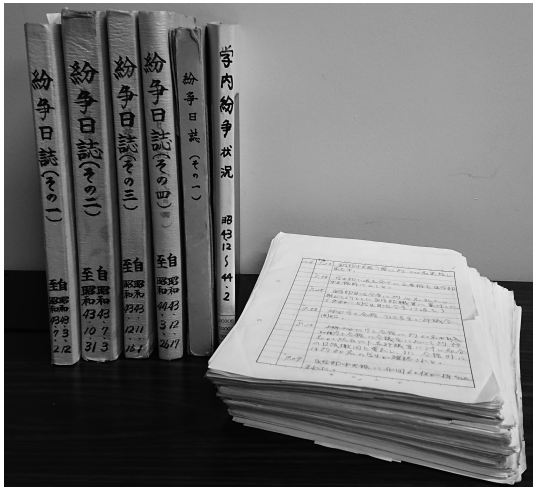


写真2 記録内容の例

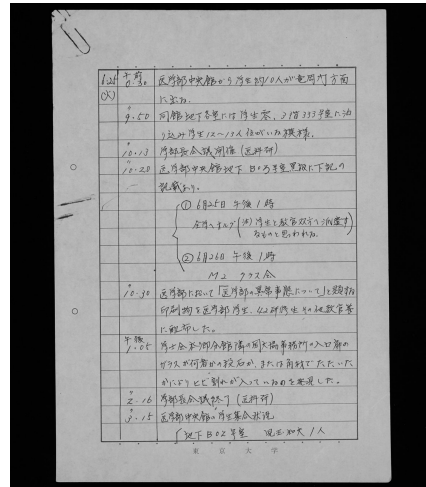
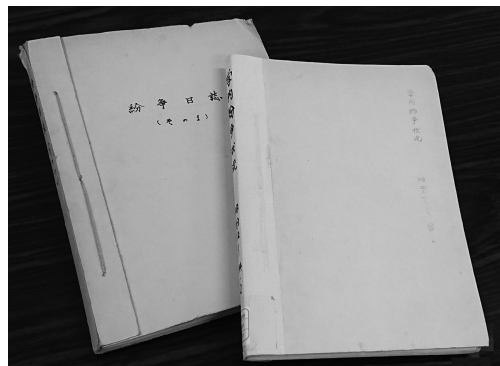


写真3 「紛争日誌」A～D



写真4 「紛争日誌」Eと学内紛争状況



を分析し、情報系列を整理するとともに各記録の作成経緯推定を行いたい。

現在、「紛争日誌」資料群には手書き原稿と複製の二種が存在している。手書き原稿は製本されていないFと、「学内紛争状況」として製本されているGである。この両者は、同一の東京大学昇紙に担当者のペン・鉛筆書きで記入されている点が共通している（筆跡から数人の担当が交代で記入したことがわかる）。また記録の対象期間が相互補完的であることから、元はひとつの原稿であった可能性が高い。

一方の複製によるものがA～Eで、これらはすべてナンバリングの上、製本されている。記録の対象期間を比較するとAとEがともに【その1】で重複しており、B以降は【その2】…と順次製本されたと考えられ、前述のように簿冊体裁の点からはA～Dが一連の《正本》、Eは《副本》という見方ができる。

しかしナンバリングに注目すると、二種類あることが判明した（写真5・6）。Eおよび

写真5 Aの頁番号表記

昭和34年		081
7.2	午前	大講堂マス会議室前に「学生部職員」立入禁止、 警告合子も入、貼り紙あり。
10.07		学部委員会議前権(医科研)
11.25		大講堂内学生の姿勢し、正面玄関の見張りの学生 2人、夜間会議4~5人かいる。
午後	2.15	工学部総決起集会が前、これ、学生約30人位 が集合した。 (集会呼ぶ物工、教数、原研、建築、都工4有志)

写真6 Bの頁番号表記

昭和34年		93
7.2	午前	施設部会議室に毎日新聞、東洋新聞の記者が取 材に訪れ、そのさい学生側がたのこを述べた このことである。
		①本部封鎖後、毎日講堂内で集会を 行なう。
		②夏休みに関係なく行動を続行ね。
		③今回の行動は本部封鎖であり、職員の 出入を阻止することである。

B・C・Dの頁番号は2桁で【その1】Eから【その4】Dまで連続していることが確認できる。一方、Aは先頭に0がつく3桁表示で、最終頁(写真5)は「081」と付番されている。これに対し、連続した日付となるBの最初の頁(写真6)の番号は「93」で、Aと接続しない。つまりAに綴られている複製は、E・B・C・Dに綴られている複製とは別系統のものであることを示し、ナンバリングに着目すれば一連の記録はA・B・C・Dではなく、むしろEを【その1】とするE・B・C・Dということになる。

次に、記述内容の異同に着目した場合、Eに入れられた加筆訂正が別の記録にも反映され、書き替えられていることが判明した。その例が写真7・8である。

複製物であるE(写真7)にはペンで補記や訂正が加筆されている。該当箇所を手書き原稿のF(写真8)で確認すると、これらを反映して書き替えられたことがわかる。つまり、現存するFはEの記述を反映した「訂正原稿」であり、Eの複製原版となった「当初原稿」ではないといえる。そうした観点からE・B・C・DとFの内容を比較すると、複製として前者には綴られているが、現在の手書き原稿Fには欠落している部分があることも明らかになった。

写真7 Eの訂正記入箇所

3.25	面会代表学生20人 第2会議室12 <i>(大講堂正面玄関到着 3.40頃)</i>
3.40	約150人の学生で不用始、 (350医部中館前2集会 6.00-30 講堂正 面玄関12集会 4.13内科病棟玄関前12 動 人数10増減あり)
4.60	4.25頃 第2会議室の代表学生20人退室

写真8 Fの該当箇所(書き替え済)

3.25	面会代表学生20人大講堂正面玄関到着 3.40頃 第2会議室12	全体書き換え
3.40	約150人の学生で不用始、 (350医部中館前2集会 6.00-30 講堂正 面玄関12集会 4.13内科病棟玄関前12 動 人数10増減あり)	
4.60	4.25頃 第2会議室の代表学生20人退室	一部書き換え

これらの分析を総合して「紛争日誌」資料群の情報を系列化したものが図1である。図の左から右へと時系列に沿って整理しているので、作成経緯の推定とともに確認していく。まず、1968・69年当時、日々の連絡事項を受けて庶務部内担当者が日誌原稿を作成していた。現在Fに残るクリップやホチキス留めの痕跡からは、これらの原稿が未成本の状態の日付ごとにクリップ等でまとめられ蓄積・保管されたことが想像される。これが「当初原稿」である（F'と表記）。

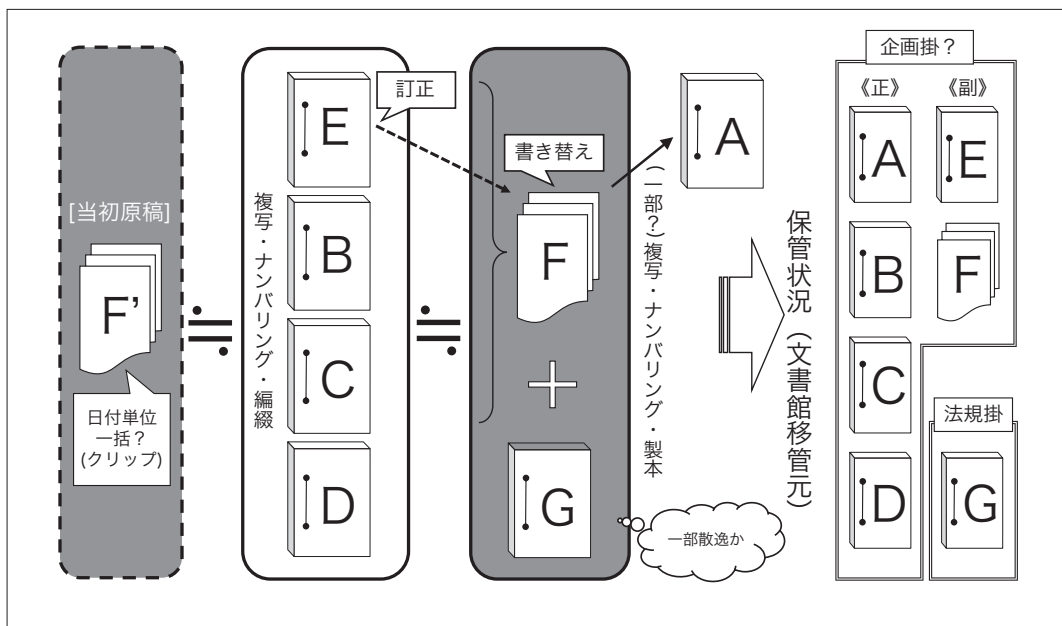
次にどこかの段階でF'が複写され、複製物をナンバリングの上、E・B・C・Dに編綴された。その後、Eを利用するなかで記述の修正が発生、修正はF'へも反映され、書き替えを実施した結果、手書き原稿は「修正原稿」（F）となった。

また、この修正・書き換えと前後関係は不明であるが、法規掛によってF'から一部を分離してGが編綴された。抽出されたのは【その4】とほぼ対応する1968年12月17日から69年3月の記録で、秩父宮ラグビー場での全学集会や、安田講堂事件など運動が最も高揚した時期のものである。法規掛が、どの段階かは定かではないが、学生運動関係資料としてこれらを抽出、別途利用のため製本したと考えるのが妥当であろう。

この結果、手書き原稿はバラ原稿のままのFと製本されたGに二分されたかたちとなった。なお、F'からF + Gへと変遷していく過程で、手書き原稿の一部が散逸した可能性があるのは前述の通りである。欠損分の情報については、現在E・B・C・D（F'段階の複製物）から補うことで利用可能である。

さらに「修正原稿」であるFを原版として、再度複製が作成された。これも新たにナンバ

図1 「紛争日誌」資料群の情報系列と保管状況



リング・綴綴（製本）されたと考えられるが、現在確認されているのは【その1】にあたるAのみである。複写対象がそもそも【その1】だけであったのか、【その2】以降が散逸したのかは不明である。

以上が作成経緯をもとに整理した「紛争日誌」資料群の構造である。その後、これら7点の資料は、右部分のように庶務部および後継組織内で管理・保存されたと想定される。そして順次文書館へ移管され、現在の編成となった。

翻刻にあたって

前節で検討したように、「紛争日誌」資料群には複数の情報系列があり、相互に異同がある可能性がある。ひとまず本誌での翻刻に際しては、所管課で長期にわたって《正本》と認識されていたA・B・C・Dを底本とし、Aの日付の欠損分についてはEから情報を補足することとした。そのため各記録相互の細かな異同については、本誌上での表記が煩雑となるのを避ける目的から、すべてを反映してはいない。現在「紛争日誌」資料群は、すべて当館において公開しているため（個人情報等を含む場合は部分公開）、利用者において適宜確認をお願いすることとしたい。

翻刻作業は当館職員（秋山淳子・星野厚子・村上こずえ）の分担によるものである。
（秋山淳子）

凡例

- 本文に付された傍線、振り仮名、送り仮名、句読点等は、原文のまま記載した。
- 旧字、異体字については新字体に改めた。
- 学生運動等で用いられる特殊な文字（いわゆる「ゲバ文字」）は、基本的に常用漢字表記に改め、「斗争」の「斗」など当て字は原文のまま記載した。
- 時刻表記は、本文中の「午前」「午後」表記にばらつきがあり誤解を招くおそれがあったため、すべてを24時間表記に改めた。
- 翻刻に際して補記した部分は【 】*で表示し、同項目の末尾に註記（※）を挿入した。
- 底本の欠損部分を他の資料で補充した場合は、該当箇所の前後に【以下、[補充資料の参照コード]より補充】／【以上、[補充資料の参照コード]より補充】と明記した。
- 翻刻内容に、個人情報等、誌面での公開が不適切と考えられる記述がある場合、【個人氏名】のように【 】内に情報内容のみを表記した。なお、当館の公開審査に関する判断基準は「東京大学文書館における特定歴史公文書等の利用請求に対する利用決定に係る審査基準」を参照されたい。

医学部学生処分撤回要請等に関する学生集会記録

連絡時刻 (昭和 43 年 3 月)

3月12日(火)	14:00	医学部中央館 331 号室に 150 名、302 号室に 50 名くらい集合。また医科歯科大学から赤いヘルメットを着用した約 30 名くらいの学生が応援に来る。
	14:30	事務局より各部局に警戒態勢の指令
	15:03	2:50 頃デモ隊は医学部本館に乱入し、学生部長室、事務長室を占拠して、内田事務長を約 35 分つるし上げる。
	15:30	安田講堂正面玄関から約 150 名が乱入、総長室前を占拠し集会。
	16:40	安田講堂を退去し、ジグザグデモを行ない理学部前を通過し、病院上田内科 3 階医局の廊下に乱入し、廊下を占拠し、集会。
	17:20	病院を退去
	17:30	医学部中央館 3 階に約 200 名集結し、集会中。
	17:50	学生部で退去命令の立看板を医学部中央館前に立てる。
	19:25	医学部自治会室に約 14 名乱入し、阻止しようとした医学部職員に暴行した。(7:40 同学生自治会室より退去)
	19:50	神田学生会館 302 号室で評議会開始。
	20:30	8時7分に学生会館に約 40 名が乱入、その後学生会館の会議室において約 50 【60】*名が総長以下各評議員に対し処分の白紙撤回を要求し、また、会館外には約 40 名の学生が確認される。 ※「50」を「60」に修正あり
	21:07	医学部中央館に布団 60 枚が持ち込まれた。
	23:05	11 時 3 分に学生会館から警官出動要請。
	23:10	医学部中央館内には学生確認されず、同館玄関前に学生 3 名おり、同館閉鎖することを拒否している。
	23:23	本富士署より機動隊約 120 名が学生会館外の学生を排除している旨連絡あり。
	23:40	竜岡門閉鎖、入構禁止の貼紙をした。医学部中央館の閉鎖については医学部対策委員会で検討中。
0:35	11 時 22 分に学生会館外の学生約 30 名中の 5 名が逮捕。	
2:22	学生会館廊下の学生全員排除。廊下には報道関係者 25 名が待機、館外には約 35 名の学生が確認される。	

3月13日(水)	5:40	5 時 35 分に総長、控室に移る。学生は学生会館内を退去、学生会館正面で集会。
	6:05	学生移動開始。学生は明治大学前でジグザグデモ。その後、医科歯科大学に入る。
	6:20	医学部中央館内に学生 10 名入る。(6 時 30 分には学生 63 名となる)
	6:27	総長、学生会館内で法、経、文、理学部長等と善後対策を検討中。
	7:00	6 時 45 分ごろ総長以下各氏学生会館より散会。

	15:40	医学部中央館にて学生集会。人数は70～80人と推定される。
	15:16～16:00	学部長会議
	17:00	集会終了後構内をデモ。
	17:30	安田講堂玄関前にて集会（約1時間）
	18:30	再び医学部中央館に帰る。

3月14日（木）	9:45	学生約30名、総長私宅にて総長に面会を求める。本日総長と学生20名とが安田講堂内で会うこととなった。
	14:00	処分学生等との話し合いについての教官会議開催（出席者、総長、法・医・文・理・経・養の各学部長、上田病院長、太田・藤村・雄川・高野館各教授）－2：50解散
	14:45	面会代表学生から、庶務部長は、本日午後3時からの話し合いについて予備交渉の電話あり。
	15:25	面会代表学生20人大講堂正面玄関到着、3：40頃第2会議室に入る。
	15:40	約150人の学生デモ開始。 （3：50医学部本館前で集会、4：00安田講堂正面玄関にて集会、4：13内科病棟玄関前に移動、人数に増減あり）
	16:40	4：25頃、第2会議室の代表学生20人退室。
	16:45	約130人安田講堂正面玄関前で集会、5：30退去。
	19:50	80人ぐらいの学生、医学部中央館を出て竜岡門付近をデモる。

3月15日（金）	10:50	医学部学生が薬学部学生の試験場にビラを配布。
	11:10	医学部中央館に集結中の学生のなかには、中央、法政、明治、横浜市立大、医科歯科大および教養学部の学生が混じっている模様。
	12:00	学部長会議。
	12:10	学生は医学部本館前に立看板を出す。 内容 { 話し合いは一方向的に破棄された } { 大河内は辞職せよ } { 卒業式実力阻止 }
	12:30	学生部において医学部中央館前に退去命令の看板を出す。
	13:24	学部長会議終了。
	15:15	医科歯科大学において全医連と青医連の東大医学部の闘争支援大会が2室で開催された。
	17:30	上記支援大会解散。

3月16日（土）	12:30	3時から法学部長室において学部長懇談会開催とのこと。
	15:30	約60人の学生、安田講堂前をデモ、3：40医学部中央館に帰る。
	18:25	学部長懇談会終了

3月18日(月)	10:00	医学部中央館の学生の動きは、土曜日夕方以来目立った動きなし。外部の学生を加え、告示に関係して警官導入の件を話し合っているとされる。警官導入反対のビラが各所に見られる。医学部では医学部中央館を占拠している学生の説得を計画中である。 (医学部太田邦夫教授からの連絡)
	10:40 ~ 12:02	医学部教官2名(学生委員長藤村靖教授、前学生委員長長山本俊一教授)が医学部中央館の学生の説得にあたった。説得開始時の学生数15~16名、説得終了時の学生数約70名。 (医学部太田邦夫教授からの連絡)
	11:55	医学部中央館3階入口に学生がバリケード構築を始めた。
	12:02	説得中の教官が外に押し出された。
	13:00 ~ 14:25	医学部の異常事態について臨時事務長会議
	14:10	医学部中央館の学生は約90名となり、3階はほとんど占拠されたもよう。
	17:20	①慈恵医大に掲示あり。内容は“19日午後6時医学部中央館にて医学連が主体となり「東大学生の処分撤回、医師国家試験反対実力阻止」総決起集会を行なう。当夜の中央館の泊り込みは無料である”。 また、20日午前7時に小泉公園(国士館大の近く)に集会を呼びかける看板あり。 ②医科歯科大には総決起集会を行なう旨の掲示があった。 (横山学生課長からの連絡)
	17:55	19日開催予定の評議会に学生側が動員をかけるおそれがある。 (医学部太田教授からの連絡)
16:00 ~ 17:10	臨時学部長会議	

3月19日(火)	10:35	医学部中央館前に立看板が出された。 内容 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 5px;">機動隊導入のおどかしをやめよ</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">医学部中央館を死守する</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">大河内、豊川、上田は辞職せよ</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">医療の帝国主義的再編粉碎</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">不当処分を白紙撤回せよ</td> </tr> </table>	機動隊導入のおどかしをやめよ	医学部中央館を死守する	大河内、豊川、上田は辞職せよ	医療の帝国主義的再編粉碎	不当処分を白紙撤回せよ
	機動隊導入のおどかしをやめよ						
	医学部中央館を死守する						
	大河内、豊川、上田は辞職せよ						
	医療の帝国主義的再編粉碎						
不当処分を白紙撤回せよ							
12:08	医学部全学闘争委員会代表と称する学生から庶務部長に至急電話連絡方申出あり。 電話内線5381(医学部中央館3階310室附属室所在)						
16:10	本郷構内各部局事務長に対し、学生は6:00から医学部中央館で集会、明20日国家試験阻止行動を行なうので、建物の戸締、緊急の連絡に備えるよう指示した。						
16:40	白ヘルメット2名、黄ヘルメット2名、医学部中央館に入る。						
19:18	医科歯科大の学生20名医学部中央館に入る。						

医師国家試験阻止行動に関する記録

3月20日(水)	6:25	観光バス(小田急)2台東大到着
	6:30	内1台は空車のまま医科歯科大へ回送、同大では約40名が参加したもよう。
	6:30	学生等約45～50名(うち赤ヘルメット30、他に黄緑ヘルメットあり)医学部中央館前に集合。
	6:33	医学部本館-アーケード-大講堂前-病院玄関前をデモ行進。
	6:45	病院前から観光バスに乗り、世田谷小泉公園に向った。
	7:04	小泉公園には機動隊の大部隊が集結中。
	7:30	7:22小泉公園に約240名のデモ隊が集結した。 (自治会前委員長横田がみられた。赤ヘルメット80)
	8:05	医学部中央館には15～16名が残留。
	8:10	デモ隊は7:54小泉公園出発、世田谷通り入口で機動隊に阻止されたが、再び行動を開始、第1集団、東大、順天堂大、東京医大 第2集団、医科歯科大、その他
	8:15	デモ隊の先頭は国士館大に到着したが、機動隊にサンドイッチにされ、左へ左へと誘導されている。 (デモ隊、角材等はもたず)
	8:40	城址公園に至り、同公園でデモ隊員1名(12日安田講堂に乱入したデモ隊のリーダー)が機動隊に逮捕されたが、デモ隊が奪回した。
	9:05	(本富士署から連絡)デモ隊は男260、女30、検挙3。
	9:25	デモ隊は機動隊に囲まれ、駒沢公園方面へ移動している。
	9:30	駒沢公園で学生が警官から手錠を奪った。
	10:05	デモ隊200が駒沢公園から円光院に出て西へ向って移動。
	10:20	世田谷4丁目附近通過。
	10:40	10:30、140～150名馬事公苑に入る。
	10:55	デモ隊は馬事公苑で現地解散。 12:00から東大で総括集会を開くとのこと。
	12:05～13:10	デモ参加者89、竜岡門、赤門から、またスクールバス等で東大に入る。
14:00	医学部中央館3階でマイクを使い集会中。	
15:55	竜岡門から学生男12、女3(内赤ヘルメット8)が出る。	

3月21日(木)	10:20	医学部本館前学生専用掲示板にビラあり 内容 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 3.22(金)0:30～1:30 於:医学部本館前 処分をうけた粒良が上田内科医局事件発生時東京に不在であった事実を証言するための集会を行なう。 </div>
	10:50	自治会副委員長 立野一郎らしき足の悪い学生が医学部中央館に入る。

10:50 ~ 12:00	医学部中央館入館者約 16 ~ 17 名。
13:00	医学部中央館入館者 6 名。
16:00	医学部中央館地下 B03 号室に 20 名以上、B02 号室に 30 名以上、3 階 302 号室には 30 名以上の学生がいる。 17 日深夜から 18 日にかけて医学部中央館で激しい討論があった。全学自治会中央委員会は大講堂占拠については討論し、拒否を決議した旨連絡してきたので（電話）、医学部 M 3 はこれを支持したので、締出されて B02 号室に入ったらしい。 現在、クラス会を開いているもよう。 (医学部金子事務長補佐からの連絡)
18:38	薬学部用務員室にいた庶務課員 2 名に薬学部自治会委員長、同副委員長が身分を明らかにせよと要求してきたので、薬学部長及庶務掛長に伝え退去してもらった。
17:45 ~ 6:45	この間医学部中央館から赤門方面へ約 27 名竜岡門方面へ 11 名出る。
19:30	医学部中央館 3 階 303 号室の討論会は終わったもよう。
20:30	医学部中央館地下 B02 号室の M 3 クラス会は終り帰りはじめた。同 B03 号室は 2 ~ 3 名がいる。 B02 号室 M 3 クラス会帰りの 5 ~ 6 名の立話「現在の状況は刻々変化している。状況を見極めて行動せよと話しても執行部はとりあげないで困る」他の者も肯定していた。 (医学部金子事務長補佐からの連絡)
19:00 ~ 23:30	学部長懇談会

3 月 22 日 (金)	12:25	学生 2 名が医学部本館前でマイクを使い粒良事件の報告集会へ参加を呼びかける。
	12:45	約 30 名の学生が集会を開く。 ①医学部全学斗争委員会委員長が処分事件の経過を報告し、処分撤回の今後の運動について理解と協力を要請した。 ②粒良邦彦が 2 月 19 日夜のアリバイを説明した。 ③神谷周明 (久留米大医学生) が同日の粒良のアリバイを証言、また久留米大医自治会は東大医学部の斗争に全面的に協力するとのことを述べた。
	13:15	集会終了 (終了時約 120 名) とともに、上記 3 名が記者会見を行ない他は大講堂へ向けデモ行進
	13:30	約 50 名が大講堂正面玄関前到着、座り込み集会を開き、①評議会の処分撤回、②総長の辞職、③卒業式の阻止、④時計台の占拠等を叫ぶ。
	14:00	大講堂正面玄関退去 (退去時デモ隊数は 64、内黄ヘルメット 7、赤ヘルメット 4)、2 : 15 医学部中央館に入る。

【以下、S0032/SS09/0126 より補充】

	15:00 ~ 16:30	事務長会議
	17:00 ~ 18:35	臨時学生委員会

19:00 ~ 23:15	学部長会議
---------------	-------

3月23日(土)	1:35	黄ヘルメット3名が長い竹竿を使い大講堂正面玄関前及び右側附近にビラ(二種類)貼り中を、退庁しようとしていた学生部職員5名に発見され逃走した。 ビラの内容 〔①大河内、全学評議会は直ちに大衆団交に応じ、不当処分を白紙撤回せよ ②3.28 卒業式実力阻止 時計台を占拠せよ〕
	1:50	学生部職員がビラを除去中、学生2名がきたので誰何し論争となった。事務局職員が応援に駆けつけたため、学生1名は逃走、逃げおくれた1名は、巡視1名を突きとばし、軽度の負傷を与えたので学生課長が詰問のうえ帰した。
	2:20	学生約20名が大講堂周辺をデモった。

【以上、S0032/SS09/0126より補充】

	13:00	工学部1号館15番教室において東大7者連絡協議会主催の医学部処分問題討論集会開かれる。人員約150名。
	13:20	医学部中央館に立看板あり。 内容 〔23日午前1時30分、横山学生課長、島田課員ら10数名、学友2名を袋だたき、酒気を帯び、ちょう発活動に暗躍、でっちあげ処分と呼応した権力と暴力の全面的展開を許すな。〕
	13:25	学生7~8名が学生委員会開催中の大講堂第2会議室におしかけ総長不在の有無を確かめる。
	13:30	学生3名に対し、第2会議室前で学生委員2名(後に学生委員長、同副委員長にかわる)が説得を行なう。この間、学生側は学生部入口より2~3名位づつバラバラに入り総長室前で集会、その数約90~100名。
	14:15	集会を終え、学生は大講堂正面玄関扉をあけるよう要求。学生部の責任で扉をあける。学生は玄関外に置いてあったプラカード、ヘルメット(黄3、赤3、青1)を中へ引き入れ、着帽し、玄関前を2廻りデモ、さらに正門へ向ってデモ行進し、正門より外へ出る。
	14:20	正門を出たデモは赤門より入り医学部本館前で一廻りデモ、さらに医学部中央館へデモ。
	14:25	デモ隊、医学部中央館に到着、約半数が入館
	15:20	大講堂第2会議室前での学生委員長、副委員長の学生3名に対する説得は終り、学生退去。 3:25 玄関しめる。
	15:30	工学部1号館における東大7者連絡協の集会終る。
	15:50	東大7者連絡協の集会参加者約150名、大講堂正面玄関前に到着、"警官導入反対""不当処分反対""われわれは医学部を支持する""大学の自治を守れ"とシュプレヒコールを行なう。(旗の種類は東職、東院協、理学部、工学部、全学連。)

	15:53	東職佐々木書記外1名が庶務部入口にきたが、三浦氏が入場をことわる。
	15:55	東大7者連絡協の集会参加者によるデモは病院前そして医学部中央館前で各々氣勢をあげる。 4:05 医学部本館前でシュプレヒコール、集会
	16:25	医学部本館前の集会終る。東職が解散。 4:30 学生も解散。
	18:10	医学部中央館の地階 B05 号室、B03 号室で約 50 名が集会中。 討論内容 - 「機動隊の導入を誘発するような行動はつつしむべきだ」ということ等が聞かれる。

3月24日(日)	9:20	医学部本館・中央館・病院前及び安田講堂周辺の各所異常なし。
	11:00	医学部中央館地下各室には学生は1人も見当たらない。同館三階の学生は極めて少数のように察せられる。
	15:30	医学部本館、中央館、病院及び安田講堂周辺の各所異常なし。

3月25日(月)	15:16	約70名(内、赤ヘルメット12、黄ヘルメット4、青ヘルメット1) 医学部中央館→社研前→大講堂前へデモ 大講堂前で集会。 評議会の処分撤回、総長の辞職、卒業式の実力阻止等シュプレヒコールをくりかえす。
	15:32	大講堂の集会終了後構内をデモ、病院へ向う。 (内科玄関にて集会約10分間)
	15:50	病院の集会を終えデモを行ないつつ医学部中央館に帰る。

3月27日(火)	12:00	銀杏並木通りで民青系学生の集会。約100名
	13:00	医学部中央館の学生約140名同館内で集会。
	13:00	銀杏並木通りの民青系学生の集会は終り、学内デモに移り14時30分解散
	15:00	医学部中央館の学生約140名、大講堂前まで学内デモし、講堂前で座り込む。その周辺を民青系学生がとりまく。各学部教官約400名が大講堂前の両側の芝生の周囲に集り学生の動きを見守る。学生委員長、副委員長が三派系の学生に説得。
	18:00	教官は約3分の1程度に減少し、研究室へもどる。学生委員による説得終る。三派系学生学内デモに移る。7者連絡協議会、民青派学生は各部局で待機することにして集会をとく。
	19:00	三派系学生約100名、大講堂前を立看板でとりかこみ、中に寝具を持ち込み、泊り込みの準備、集会を行なう。
	21:00	学部長懇談会開催。
	22:00	学部長懇談会終了。

3月28日(水)	8:58	学生部長から学生課長に対し指示あり、次の掲示を出すことと
----------	------	------------------------------

	<p>なった。 「昨日来安田講堂前を占拠していた学生の集団が今晚大講堂玄関を打ち破り不法侵入し退去しないので本日の卒業式は、大講堂における式典を中止します。 各卒業生には、例年どおり所属学部において卒業証書の伝達を行ないます。 3月28日 東京大学」</p>
9:40	大講堂玄関前の座り込み集団は、構内のデモ行進を始め、構内一巡後再び玄関前に座り込み集会を続ける。
10:30	庶務部長室において卒業証書を各学部 handed する。 卒業生父兄に対し式典場である大講堂見学のため、公開することを決定。
11:35	大講堂玄関前の座り込み集団は、構内でウズマキ・デモ行進を始め、医学部本館前にて集会し、約60名位が医学部中央館に入った。
12:00	一斉指令終了
13:15	職員組合、学生自治会等のデモ行進あり 参加人員約120名
17:05	学部長会議開催 「明日の学位記授与式取り止め、各所属研究科において学位記を伝達すること。また、明日午前8時30分からの研究科委員会委員長会議も取り止めることを決定し、ただちに尾高社会学研究科委員長に電話連絡」 なお、上記に関する掲示文は、 「事情により本日の大講堂における学位記授与式をとりやめます。博士課程、修士課程修了者には、所属研究科で学位記の授与を行ないます。 3月29日 東京大学」
22:29	学部長会議散会。

3月29日(木)	10:50	医、中央館 準備室に4~5名 300号室寝ているもよう、廊下にヘルメットあり
	11:35	男3名、女1名 布団ほし
	13:35	今朝と同様、異常なし
	14:30	医、中央館 300号室から303号室へ移動2~30人相談中、2階と3階の間のバリケードはそのまま
	16:15	医、中央館からライトバン1台で寝具数組積み出す
	16:20	一斉指令解除
	17:05	医、3号館 玄関、階段等にビラをはる 20cm x 30cm 大の更紙にマジックインキ 「身分保障、ストライキを」 「死活問題 我々はもうがまんできない」 「卒後資格、スト権 収奪を」

		「断固ストライキ 保健学科クラス会」 「卒後資格をかちとるぞ 3月30日」等
	18:05	地下室2室にそれぞれ20人位ずつ 3階にはみられない。

4月1日	10:20	医、中央館 地下室0名 3階335号室 4～5名寝ている（ドア開放のまま） 医、中央館前に立看板二つ ①本4月1日 総決起集会 1時より335号室 明2日 登録医制粉碎 緊急闘争 12時30分より335号室 （清水谷公園） ②明2日 登録医制粉碎緊急闘争 12時30分より335号室で 1時出発 清水谷公園へ 参院法案通過阻止
	13:20	医、中央館 3階335号室で4～50人討論会

4月4日（木）	13:00	医学部中央館333号室で40～50名（M4）、302号室で20名（M3）、300号室で30名（M2）それぞれ討論会。正面玄関から入った者は少ないので、食堂、地下室からエレベーターで入ったものらしい。
---------	-------	---

4月5日（金）	11:05	学生2名医学部中央館から資金カンパの箱とビラをもって赤門方面へ。
	13:10	M1、M4クラス会開始
	13:30	医学部中央館から地下鉄本郷三丁目駅に1名向う。（11時5分にも2名本郷三丁目駅に）
	13:40	医学部中央館入口で女子学生が看視している。特に薬学部3階に注意している。
	15:05	朝日新聞の記者2名、学生1名の出迎えを受けエレベーターで3階へ（医学部中央館） クラス会続行中の模様。他大学の学生らしき者数名ずつ3階へ上る。その人数増加しつつあるが正確な数は解らない。
	15:20	委員長が数人と食堂で相談している。他大学の学生か他の自治会かの学生に従来の経過を説明している。
	15:30	学生5人が公衆電話を使用して一斉にどこかに連絡している。
	15:50	5人位ずつ2組、医学部中央館から出た。
	16:00	社会新報の記者一名が中央館に入る。
	16:10	社会新報の記者帰る。

4月11日（木）	10:40	医学部中央館333号室に30名位、302号室に20名位、廊下に
----------	-------	---------------------------------

	10名位、玄関に見張り2名 午後3時に時計台占拠を広告している。
11:10	学生20名位増加し、80名位となる。 毎日、中日新聞社の車が駐車
11:25	地下室に学生55名位入る。
12:00	七者協の集会在大講堂前で始まる。約20名
13:10	七者協 約200名集会終了、学内デモ 医学部中央館、各クラス会続行中
13:45	大講堂前 反帝学評(文学部)デモ
14:15	医学部中央館前 朝日、フジ、NHKの車が駐車 中央館1階、3階学生の出入が激しい。約150名
15:00	医学部中央館 地下B02、B03、B04に70名、3階80名位討論続行中。 B04及び中央館玄関に掲示 「全東大、共闘連絡会議に出席する学友へ 2時-3時 医学部図書館310号室集合待機 5時- 安田講堂前へ」
17:10	医学部中央館から3米巾の木のつい立てを5枚程持って学生が出てくる。
17:25	七者協集会人数約80名(大講堂前)
18:00	全学斗系(医学部)学生が七者協の後方(銀杏並木)に集合している模様
18:20	医学部中央館3階で40名位集会を開催
18:15 ~ 18:25	全学斗系学生と高野学生委員長の会見物別れに終る。 「1、処分白紙撤回 2、3月12日以降の行動は、すべて大学の責任 3、大衆団交に応ぜよ」 以上の点について何らかの保障がなければ予定の行動をとらざるを得ない。といいながら学生側は退席 引き続き高野学生委員長は七者協と会談
19:03	医学部中央館に約100名集る。
19:09	医学部中央館から約70名赤門を出た。 残り30名位は中央館地下室へ移動。
19:25	高野学生委員長と七者協との会談終了。
19:35	医学部中央館玄関で約200名集会。
19:37	上記200名、大講堂に向う。
19:45	約170名 医学部本館前
19:50	約170名、大講堂正面玄関前で集会
20:03	すのこ板10枚を大講堂正面玄関に持ち込む。
20:15	アジ演説、大講堂正面玄関で開始。
20:40	大講堂前約140名に減る。
20:55	アジ演説終了

21:00	ふとんを大講堂正面玄関に持ち込み、宿泊の体勢。
18:30 ~ 22:55	学部長会議

4月12日(金)	1:10	大講堂前デモ開始。アーケード→医学部→赤門→正門→大講堂玄関
	1:25	大講堂正面玄関に再度座り込む。 人員の一部を随時交代している。
	2:10	医学部中央館の50～60名寝た模様。
	2:20	法学部アーケードに数十名集合している。 人員の交代は医学部中央館でも行われている。
	2:40	法学部アーケードに人影なし。学友会に移った模様 大講堂正面玄関で「玄関前に座り込む者6時までには行動を行わず。2班に分れ大講堂正面と裏面に分れ行動する」旨の結論を出した様子。
	3:30	大講堂各入口に学生2～3名ずつ見はりに立つ。15～20分位で交代している。
	5:30	大講堂正面玄関の学生は寝ている。その他各入口に2～3名ずつ見はりを続ける。
	5:35	医学部中央館の学生を起こしている。
	6:05	学生、中央館から大講堂に三三五五向う。車に便乗する者あり。
	6:08	大講堂正面デモ開始 社青同系学生24名全員覆面にヘルメット姿で文学部付近に集結
	6:10	大講堂前でスピーカーを用いてシュプレヒコール開始。
	6:20	約150名デモ開始。大講堂周辺
	6:45	デモ大講堂正面玄関に戻る。座り込む。
	7:30	学生約50名は大衆団交、残り50名は新生生に対し入学式ボイコットのピラを配る。
	8:40	20分間隔で覆面した学生の乗車した車と車が打合わせしては、走り去る。 (池ノ端門付近)
	9:00	総長、自宅出発
	10:05	総長、大講堂経理部入口着、学生30名位ともみ合った結果、中に入る。
	10:10	入学式開始。総長の大講堂入場を知った正面玄関の学生が廊下に乱入。教官、職員と激しくもみ合う
	10:40	廊下に乱入の学生、講堂入口に向ったが演壇の入口はバリケードと教官によって阻止、学生は第二会議室前に座り込む。高野学生委員長、館同副委員長等が交渉、11時10分頃物分れに終る。
	11:10	入学式終了 総長、事務局長室に入室、休憩
17:00	大講堂前の座り込み解く。 総長室前で「処分粉碎」のシュプレヒコール	

17:25	学生、医学部中央館に引きあげる。
17:45	総長帰宅
18:00	医学部中央館で集会

4月15日(日)	10:00	9時30分現在医学部中央館3階に10名位いる。 医学部中央館前に立看板あり <ul style="list-style-type: none"> ① 処分の白紙撤回 ② 登録医制粉碎 ③ 4.16 8世代総決起集会 pm 1時から333号室 ④ 4.18 登録医制国会通過阻止 青医連、全医連統一行動 医学部本館前芝生で新M1、30名位が雑談している。
	12:00	10時30分新M1学生が40～50名となったので、山川教授が本日の授業に出席するよう説得した。 医学部中央館前の立看板と同内容のものおよび次の内容の立看板を医学部本館前に出す。 <ul style="list-style-type: none"> ① 国大協路線粉碎 ② 全東大生奮起せよ
	13:00	11時30分新M1の学生5名が医学部事務室にきて学部長から医学部の異常事態発生について事情をききたい旨申し出る。 内田事務長がこれを太田教授に伝え、同教授が学生に約1時間30分にわたって説明を行なった。
	15:10～16:05	大学院協議会

4月16日(月)	10:15	医学部中央館地下ロビーで2、3名談話している。3階には泊り込み学生が数名いる。 新M1は授業に出席せず。
	13:40	医学部中央館302号室に約50名、300号室に約30名、310号室および333号室にそれぞれ数名ずつおり、討論している模様
	16:05	医学部学生約90名学内デモ 大講堂正面玄関前で集会
	16:23	大講堂前退去

4月17日(火)	11:10	学部長会議開催
	12:30	医学部本館前および保健学科玄関に立看板あり。 医学部本館前 <ul style="list-style-type: none"> 18日登録医制反対デモ 12時 333号室集会 2時 清水谷公園 3時 国会 保健学科玄関 { 卒業後の身分保障を } 4.17 全力をつくして

		} 教官と話し合いを
	13:00	学部長会議終了
	13:00	評議会開催
	13:10	医学部中央館地下 B04 号室で学生約 5 名が看板を作っている。同 B02、B03 号室に各数名ずつ、3 階 202、333 号室に約 20 ～ 30 名がいる。
	13:30	学生 2 名が正門でビラを配布している。
	14:00	第二食堂前に立看板あり { ①処分の白紙撤回 { ②医師法改正国会通過阻止 { ③ 4.18 医青連総決起大会 統一行動に参加しよう。 学生 4 名が署名運動およびカンパ中
	17:10	評議会終了

4 月 18 日 (水)	11:10	医学部中央館地下各室には、学生いない。3 階 333 号室に泊り込み学生 5 ～ 6 名いる。9 時 30 分頃 新 M 1らしい者が 15 ～ 16 名 3 階に入る。(登録医制反対デモ参加のため)
	14:10	1 時 20 分頃 学生 50 ～ 60 名 (ヘルメット着用者混じる) 医学部中央館から赤門を出て、本日の集合地である清水谷公園に向う。 残留者 10 名程度。 第二食堂前に立看板あり。 { 4 月 20 日 医学部斗争全学シンポジウム { 4 月 21 日 国会包囲 工学部反帝学評

4 月 19 日 (木)	10:20	午前 10 時頃医学部中央館地下室は学生 0 名、B02 号室に布団 2 組あり、3 階には学生約 10 名いる。 学生が泊り込みのため 3 階に持ち込んでいた布団は、貸布団屋からの剣道部名儀で 3 月 15 日までの期限で貸入れていたが、3 月 19 日 10 組、4 月 17 日 10 組を返却し、現在 10 組が残されている。
	10:40	医学部中央館エレベーター前に掲示あり。 { 午後 1 時 333 号室 43 クラス会 { 午後 3 時 300 号室 M 3 クラス会
	10:45	医学部本館前に立看板あり。 { 暴力に守られた入学式糾弾。 { 大衆団交により白紙撤回をかちとろう。 法文 2 号館入口に立看板あり { 医学部斗争全学シンポジウム { 4 月 20 日 (土) 午後 1 : 00 ～ 5 : 00 医学部中央館 医学部全学斗、全東大連絡会議

	13:30	午後1時 医学部中央館地下B02号室5名、B03号室5名、3階302号室5名、333号室に約30名、310号室に約20名いる。
--	-------	---

4月22日(月)	9:30	医学部中央館地下B02号室に2名、3階302号室に5～6名、333号室に5～6名いる。
	10:00	研究所長会議開催
	11:30	研究所長会議終了 医学部本館前および病院前に立看板あり <ul style="list-style-type: none"> 国際反戦斗争に結合 国大協路線反対 処分白紙撤回 へ全学斗争に奮起せよ 4月26日12時 時計台 2時 日比谷
	16:00	法文2号館前に立看板あり <ul style="list-style-type: none"> 国大協路線反対 総長集団団交を獲得せよ 4月23日 銀杏並木集会 昼休み 4月24日 全学共総会 12.30 4月26日 時計台包囲全東大集会 全学共
	17:20	学生約100名医学部3号館6階藤村教授の研究室に押寄せる。
	20:10	同教授に面会できず退去

4月23日(火)	9:30	医学部中央館地下各室に併せて学生4～5名、3階には5～6名いる。
	10:00	学部長会議開催
	11:30	医学部中央館3階に10名位がいる。
	12:28	学部長会議終了
	12:50	医学部中央館3階に30～40名がおり、2室に分かれて討論を行なっている。
	14:30	大講堂小会議室において医学部学生委員会開催(出席者:委員長藤村靖教授、太田邦夫、内菌耕二、山川民夫、大江規玄、酒井文徳、横橋五郎、中尾喜久、山村秀夫各教授、寺田春水助教授)
	16:25	赤ヘルメット、黄ヘルメット着用の学生をまじえ約40名が同会場に乱入し、①処分された粒良邦彦に対する藤村教授等の行なった事情聴取の問題、②処分問題、③登録医制等について諸要求を行なう。
	17:50	庶務部長、庁舎からの退去を通告する。
	18:00	学生約60名となる。
	21:50	庶務部長、再度庁舎からの退去を通告する。
	23:10	学生が教官の退場を阻止した。

	23:20	学生約 43 名となる。
4月24日(水)	1:50	医学部大島良雄教授、同林一教授、大講堂小会議室に到着、学生に説得を行なう。
	2:50	両教授帰る。また、医学部から学生委員に食事をさし入れる。
	6:05	医学部教官 46 名、職員 10 名、大講堂に到着、庶務部・学生部職員等とともに小会議室にカン詰の医学部学生委員の救出を試みる。
	6:15	学生委員は同室に残り、医学部教官、職員帰る。
	6:30	学生は小会議室入口、総長室前ロビー及び第一会議室前にバリケードを築く。
	8:30	庶務部長、午前 10 時までの退去を通告する。
	10:20	学生 80 名位となる。学生は大講堂玄関上ベランダに赤・青の旗 2 本を出し、またマイクロフォンを設置した。大講堂前広場に医学部評議員学生委員と昨夜から団交に入っているとの立看板を出す。
	10:40	大講堂玄関上のベランダから処分白紙撤回のたれ幕を出す。
	11:30	保健センター荒木嘉隆助教授が小会議室に到着、カン詰となっている学生委員に受診させるよう学生に申し入れる。
	12:03	中尾、酒井、横橋、大江の各教授受診、その後保健センター等に移る。
	12:10	7 者協議会銀杏並木で集会、約 100 名が集まり、ベトナム反戦、医学部学生の処分の白紙撤回等を叫ぶ。
	12:35	三科(学生)受診
	13:25	7 者協議会、大講堂前－病院前－医学部本館前をデモ行進する。
	13:40	銀杏並木で解散する。
	13:42	山川教授受診、その後休養。
	14:10	医学部大島正光、山本俊一良教授が小会議室の学生委員と学生の双方に交渉の場を他に移すよう申し入れる。
	15:16	学生委員と学生との間で、大学側責任者との今後の話し合いのこと等につき一応合意をみた。
	15:20	学生は小会議室を退去。その後大講堂正面玄関前でシュプレヒコールを行ない、医学部中央館へ戻る。
16:25	学生 30～40 名(赤ヘルメット、黄ヘルメット着用者あり)医学部本館に乱入し、学部長室、事務室及び会議室等に入り込む。	
17:10	同館退去、医学部中央館に戻る。	
4月26日(金)	0:05	国際反戦統一行動および時計台包囲集会参加の学生銀杏並木で集会を開く。反帝学評約 30 名
	13:15	医学部中央館前に学生約 45 名集合(うち赤ヘルメット着用者 10 名)。
	13:20	医学部学生銀杏並木集会に合流。

	13:30	文学部学生（革マル）銀杏並木集會に合流。
		約 130 ～ 140 名となる。
	14:05	デモ開始。大講堂前→病院前→医学部中央館→医学部本館前→赤門→電車通り→正門
	14:25	銀杏並木に戻る。
	14:35	文学部学生等正門を出て日比谷に向う。
	15:05	医学部学生約 36 名再び大講堂前→病院前→医学部中央館前→医学部本館前をデモ行進し、赤門を出て日比谷に向う。

5月2日（木）	9:40	医学部中央館地下 B02 号室、B03 号室に泊込み学生 2 名、3 階に数名いる模様。
	10:10	評議会開催（宇宙航空研究所）
	13:00	評議会終了
	13:30	法文 2 号館前に立看板あり。 { 医学部問題に関する討論集會 学部長、評議員の出席を勝ちとるぞ 本日（5 / 2）P.M. 5. 30 ～ 於：工学部 1 号館 工、自治会
	13:30	医学部本館前および医学部中央館前に立看板あり。 { 5. 7 医師法改悪粉碎 青学統一行動 12 時 30 分 333 号室→日比谷 医療の帝国主義的改変粉碎 6 月国試ボ。非入局貫徹

5月6日（月）	13:00	医学部中央館前に立看板あり { 5月7日医師法改悪粉碎の青学決起斗争に結集せよ！ 自治を我等の手で形成せよ！ 11日の総長講演を許すな（大学の自治に関して） 5月祭警官導入実力粉碎 医、全学斗
---------	-------	---

5月7日（火）	9:05	学部長會議開催
	10:10	医学部中央館 3 階で学生数名が看板を作っている模様
	10:20	医学部本館前に立看板が出る。 { 確認書に基づく総長以下との大衆団交を 10 日までに実現せよ 11 日総長講演を許すな
	10:25	医学部中央館 3 階 302 号室に学生 20 名位いる。
	10:45	学部長會議終了
	13:10	学生 50 ～ 60 名位医学部中央館を出て赤門から日比谷に向う。 午後 5 時 50 分頃、医学部脳研究施設長時実利彦教授が地下鉄本郷三丁目駅に下車のところ、たまたま日比谷で行なわれた青

		<p>学統一行動帰りの医学部学生 15～16名（処分された学生数名を含む）に包囲され同駅内で午後6時30分頃まで詰問された。また、同時刻頃、医学部学生委員長藤村靖教授も同駅に下車したため、同様4月23日～24日の事件の際の学生との約束実現を迫られた。時実教授はこのとき妨害を排して大学研究室に到り、医学部事務部にこの旨報告された。藤村教授は約10分現場に引き止められ学生と話し合ったが、その後の同9時50分頃このことを医学部事務部に電話連絡してきた。</p>
--	--	---

5月9日（木）	14:30	<p>医学部本館前に立看板あり。</p> <p>{ 11日総長講演粉碎 (大学の自治最近の問題について) 処分の責任放棄、エリートの特権化 国大協路線の5月祭警官導入者の自治説を許すな により白紙撤回</p>
	14:30	<p>医学部中央館3階333号室に学生14～15名いる。</p>

5月10日（金）	11:00	<p>医学部長談話を医学部本館前および病院玄関前の掲示板に掲示すると同時に評議員、医学部在学学生、42年および43年卒業生全員に送付した。</p>
	11:00	<p>医学部中央館屋上の青旗が赤旗に変わった。</p>
	11:15	<p>医学部中央館302号室に約30名おり、漸増しつつあり。座談会をしている模様</p>
	13:05	<p>医学部中央館302号室は10名内外となる。</p>
	13:40	<p>医学部中央館裏で学生1名が双眼鏡で医学部本館および病院事務部を監視している。</p>
	14:20	<p>医学部中央館地下食堂に約20名集っている。</p>
	17:30	<p>医学部中央館302号室で約10名、地下B02室で約30名の学生がそれぞれクラス討論会をしている。</p>

5月11日（土）	9:30	<p>医学部本館前に立看板あり。</p> <p>{ 欺瞞的学部長談話粉碎 総長同席－処分白紙撤回、研教容認 大衆団交を実現させるぞ 五月祭警官導入実力阻止</p>
	9:30	<p>公開講座総長講演中止の立看板を法文2号館入口に出す。（東大総合研究会）</p>
	13:00	<p>公開講座抗議開始</p>
	13:45	<p>医学部本館前に立看板あり</p> <p>{ 登録医制に伴う医師、医学生への弾圧攻勢を粉碎せよ 文部省通達、病院長会議、上田告示による医師管理政策を許さないぞ 国ボ — 非入局貫徹</p>

	13:45	医学部中央館3階も学生14～15名がいる。同館エレベーター前掲示板に333号室1時43クラス会の記載あり
	14:30	医学部学生78名（内ヘルメット10名）病院前で集会、シュプレヒコールを行ない、その後デモ行進。二食前－理学部前－大講堂（約10分位集会、シュプレヒコールを行なう）－銀杏並木－正門－赤門－医学部本館前－医学部中央館
	15:30	公開講座終了
	16:30～19:00	公開講座聴講者懇談会

5月13日（月）	9:10	研究所長会議開催
	10:00	医学部中央館地階に学生1名、同館3階302号室に5名、333号室に5名いる。 医学部中央館玄関前の行事板に13日午後7時333号室43クラス会の記載あり
	10:30	研究所長会議終了

5月15日（水）	9:40	医学部南側塀にビラが貼ってあった。 内容 不当処分撤回 研教斗争に勝利を 総長団交をかちとれ 医全学斗争委 医学部中央館3階には学生14～15人が泊り込んでいる模様。
	10:00	(医科研において) 学部長会議開催
	11:50	医学部中央館前に立看板あり。 内容 5.15 病院長会議粉碎決起集会 (5時 M.D) 5.19 登録医制斗争総括討論集会 病院告示粉碎 5月祭警官導入実力粉碎 総長団交で全面勝利 全学斗
	12:30	医学部本館前に立看板。 内容 病院長告示“臨床研修を希望する諸君へ”を撤回せよ(5月10日の告示) 病院長上田は責任をとって辞職せよ 処分を白紙撤回せよ
	13:10	学部長会議終了。

5月16日（木）	13:50	千葉県富士見町（国鉄千葉駅前）塚本ビル8階会議室で開かれていた全国国立大学附属病院長会議会場へ、医師法の一部改正に反対する千葉大学の学生が他大学学生等を含め約50名押しかけ、会場前の廊下にすわり込んだ。
	14:45	ビル管理者からの要請で、千葉中央警察署から警官が出動し、

		<p>学生を建物から排除した。</p> <p>その際、東京医科歯科大学学生【個人氏名】(M 2) が検挙された。なお、集団中には青医連委員長大淵辰雄 (東大 42 年卒) がいたことが確認された。</p>
	15:25	<p>学生は同ビル付近から引きあげたが、その後千葉中央警察署に押しかけ、玄関でシュプレヒコールで抗議した。</p> <p>警察側が学生のマイクをとり上げたことから、こぜりあいとなったが、約 1 時間後引きあげた。</p>

5 月 17 日 (金)	12:10	<p>銀杏並木において五月祭警官導入阻止全学総決起集会が開かれた。民青系約 80 名、医全学徒、文学部学友会、経済学部自治会約 40 名が集合。</p>
	13:00	<p>民青系学生は大講堂前をデモ、その後正門を出て本富士署に抗議に向った。</p>
	13:45	<p>医全学斗、文学部学友会、経済学部自治会側学生は大講堂に入り、総長室前でシュプレヒコール (五月祭警官導入反対、総長は団交に応じ処分を撤回せよ) を行なった。</p>
	13:52	<p>学生は大講堂を退去、病院前から竜岡門を出て本富士署に向ったが、2 時 15 分頃銀杏並木に戻り、5 分くらい集会解散した。</p>
	16:05	<p>医学部中央館 3 階には約 20 名、地下 B02 号室に約 30 名、同 B03 号室には約 30 名がおり、それぞれ討論している模様。</p>

5 月 20 日 (月)	11:50	<p>医学部中央館 3 階には学生約 15 名がいる。</p>
	13:10	<p>銀杏並木において五月祭警官導入阻止集会。 医全学斗、文学部学友会、経済学部自治会学生約 25 名が集合。</p>
	13:20	<p>上記集会解散。</p>
	14:30	<p>医学部中央館エレベーター前行事予定板記載事項 5 月 20 日 302 号室 2.00 ~ 43 青医連東大支部組織大会</p>
	14:45	<p>同館 3 階には 20 ~ 30 名がいる。</p>
	15:18	<p>学部長会議開催 (医科研)</p>
	18:20	<p>同会議終了</p>

5 月 23 日 (金)	9:30	<p>医学部本館前および病院前に立看板あり</p> <p>{ 五月祭警官導入実力阻止 5 月 24 日正午までに総長、学生委は大衆団交に応ぜよ 警パト阻止 全学斗</p>
	10:00	<p>評議会開催 (宇宙研)</p>
	10:40	<p>病院前に立看板あり</p> <p>{ 卒業試験申請粉碎 確認書に基づき総長は団交に応ぜよ 処分完全白紙撤回</p>

		{ 粉碎勝利、一切のスリカエ粉碎
10:40	医学部中央館前に立看板あり	{ 5月23日12時30分～全医学科学生の銀杏並木集会 五月際警官導入実力阻止 全力をあげて斗争体制を固めよ 斗争をバネに総長団交をかちとれ
12:10	ベトナム訪日代表团歓迎実行委（七者協）、五月際常任委の学生等約70名銀杏並木で集会 別に医全学斗、反帝学評等の学生約70名同所で集会	
12:30	評議会終了	
12:30	ベトナム訪日代表团歓迎実行委（七者協）、五月際常任委側学生は、大講堂前から学内デモに移る。	
13:40	医全学斗、反帝学評等の学生（内赤ヘルメット10名）は、大講堂前で警パト反対のシュプレヒコールを行ない、さらに大講堂周辺をデモ、その後本富士警察署に抗議に向ったが、同署附近で警官に阻止され、午後2時30分頃銀杏並木に戻った。その際、私服刑事とみられる者を発見、約1時間にわたってつるしあげた。同人は【個人氏名】と名のり、デモを詳細に観察していたもので、学生側は謝罪文をとり解放した。 (学生部から本富士署に電話で照会したところ、該当の警官なしとの回答があった。)	
19:00	学生部長懇談会開催（総合図書館）	

5月24日（金）	2:00	学部長懇談会終了
	11:00	学部長等懇談会開催（学生会本郷分館）
	12:30	反帝学評、革マル等の学生、銀杏並木で集会開催（約65名、青ヘルメット、白ヘルメット着用者多数）
	13:00	学部長等懇談会終了
	13:25	医学部学生（約25名、赤ヘルメット、黄ヘルメット着用者多数）集会に合流
	14:45	デモに移り、大講堂前－病院前－竜岡門－文京四中前－竜岡門－医学部中央館前－医学部本館前－正門から銀杏並木に戻る。
	15:00	大講堂正面玄関前の扉をこじあける。
	15:05	大講堂に約60名が乱入し、①総長室入口扉に「不当処分撤回」「Kパト実力阻止」の文字をペンキで吹きつけ、②壁に次のビラを貼りつける。 { 五月祭常任委、中央委諸君の斗争放棄弾がい 警官導入実力阻止 医、文不当処分撤回 Kパト阻止全学斗争委 ③時計塔屋上に上り、警官パトロール粉碎、医学部不当処分白紙撤回の横断幕を時計塔正面に張り、赤旗（医全学斗）、青旗（反帝学評）各1本を塔上に立てる。

		その間総長室前で集会。
16:00		時計塔屋上および4階の同屋上に通ずる階段登り口に6名を残し、大講堂を退去した。
19:10		<p>医学部中央館前に立看板あり</p> <p> { 医学部学友に告ぐ 5月24日午後6時 M4 B02号室： “ 7時 333号室 医学部阻止決起集会 “ 10時 “ 五月祭警官導入阻止集会 全員泊り込み 5月25日午前7時 ピケ実力阻止行動 </p>

5月25日(土)	7:40	反帝学評、革マルおよび医全学斗学生約90名大講堂前に集合、集会を開く。
	7:50	時計塔屋上にさらに赤旗1本を立て、大講堂7階窓から「国大協路線反対」のたれ幕を出す。その後学生は150～160名位となる。
	8:10	竜岡門に向いデモ行進し、同門でピケを張る。
	9:00	民青系学生約100名銀杏並木で集会を開く。
	10:00	同集会者は約250～260名となり、竜岡門に向いデモ行進。
	10:00	学部長等懇談会開催(工)。
	10:10	民青系学生は、竜岡門を出て本富士警察署に抗議デモを行なったが、同署附近で警察側は無届デモであるので引き返すよう警告ののち、実力で学生を竜岡門に押し返した。そのさい【個人氏名】(理、物理)、【個人氏名】(養、理2)の2名の学生が公務執行妨害で逮捕された。 この後、学生は竜岡門内右側で抗議集会を行なう。
	10:15	反帝学評、革マル、フロントおよび医全学斗学生は、竜岡門から銀杏並木に戻り、ジグザグデモを後になったのち、大講堂に乱入し、総長室内前で警パト反対のシュプレヒコールを行い、午前10時18内分退去。
	10:25	反帝学評、革マル、フロントおよび医全学斗学生は、竜岡門に再び集結し、文京四中前までデモを行ない、その後竜岡門内左側で抗議集会を行ない、さらにピケを張りスクールバス以外の自動車の通行を阻止した。
	10:50	民青系学生約300名竜岡門から銀杏並木に向う。
	11:00	銀杏並木に戻った民青系学生は抗議集会を開き、午前11時25分頃総合図書館方面に移動した。
	12:00	反帝学評、革マルおよび医全学斗学生約は、竜岡門にピケ要員25名を残し、銀杏並木に戻り、ジグザグデモを行なった後、午後0時15分大講堂に再度乱入し、総長室前で警パト反対のシュプレヒコールを行ない、午後0時18分大講堂から退去。
	12:20	大講堂正面玄関前で抗議集会。
13:00	大講堂前退去。	

13:00	東京大学名で学生の自重を望む「告示」を出す。
14:30	竜岡門で医全学斗約 30 名がピケを張っていたが、自動車の通行阻止をやめた。
14:45	本富士警察署には機動隊のトラック 8 台、パトカー 10 台が待機している。
14:50	医全学斗以下の主力は、医学部中央館 3 階に待機しているもよう。
14:55	民青系 15 名位は本富士警察署に行き、午前中逮捕された学生 2 名の差し入れを申し入れたが拒否され押問答を繰り返す。
15:15	大講堂正面玄関前、庶務部入口および学生部入口に「本日の総長の講演は都合により中止いたします」との掲示を出す。
15:30	大講堂内の五月際行事開催場閉鎖。
15:35	午前中逮捕された学生 2 名は富坂。駒込の両警察署に分けられて移送されたため、押問答中の民青系学生 15 名位は 2 組に分かれ、それぞれ差し入れに向った。
15:35	ベトナム代表団歓迎東大実行委が大講堂前広場に同歓迎集会を開くため、会場設営を始める。
16:00	約 400 名が集り、歌曲合唱を行なう。
16:30	約 3,200 名となる。
16:40	ベトナム訪日代表団 2 名が会場に到着、実行委側が挨拶および紹介を行ない、同代表団ハ、スウン、チュオン団長が講演した。
17:40	同歓迎会終了。
18:35	学部長等懇談会終了。

5月26日(日)	8:20	民青系学生 110 名位が銀杏並木に集合、前日学生 2 名の逮捕の抗議集会を開く。
	8:20	反帝学評、革マル、フロントおよび医全学斗等学生約 80 名、大講堂前で集会
	9:40	上記の学生約 80 名竜岡門に向い、同門内左側附近で集会を開き、文京四中前までジグザグデモを繰り返す。
	10:25	民青系学生は銀杏並木での集会後、デモに移り大講堂周辺を一周し、法文アーケード、医学部本館、総合図書館前に至り解散。
	11:00	学部長懇談会開催(工)
	11:00	民青系学生代表漆畑中央委員長以下 16 名は、前日の学生逮捕を不当として本富士署に抗議に向う。
	11:00	医全学斗は医中央館に戻り待機している模様
	11:40	竜岡門の内の左側に反帝学評、革マルの学生約 10 名が座り込み、右側には民青系の学生約 20 名が座り込んでいる。
	11:40	本富士署で抗議を行なった民青系学生は、抗議文を渡して戻る。
	12:40	反帝学評、革マル、フロントおよび医全学斗等の学生約 50 名大講堂前で集会。
	13:25	医全学斗の学生約 20 名が上記集会に合流。
	14:00	教養学部学生時計塔上の青旗を撤去した。

14:00	学部長懇談会終了。
14:13	反帝学評、革マル、フロントおよび医全学斗等の学生大講堂に乱入、総長室前で警パト反対のシュプレヒコールを行なう。
14:18	大講堂を退去し、竜岡門に伺い、同門を出て文京四中前マデジグザグデモを行なう。
14:38	大講堂前に戻り集会。
14:50	集会を終り解散した。
17:25	医学部学生時計塔上の赤旗2本を撤去した。
22:00	時計塔に張られた横断幕および大講堂7階のたれ幕を学生部において除去した。

6月7日(金)	10:00	医学部中央館3階に学生約10名いる模様。 医学部本館前に立看板あり。(6日夜出したもの) <ul style="list-style-type: none"> { 医療医学の根本的改革のため処分白紙撤回。研教勝利。青 { 医連確立をいまこそ勝ちとろう。 時計台斗争へ <li style="text-align: right;">6月国試ボへ { 医療の帝国主義的再編-憲法の抜本的改悪粉碎、国大 { 協路線粉碎
	12:00	医学部中央館3階302号室15名、333号室1名、地下B03号室2名位ずつ学生がいる。 333号室の黒板に下記の記載あり。 <ul style="list-style-type: none"> { 9日 日曜午後7時-302号室 { 全学拡大斗争委員会 { 10日 月曜時計台封鎖のため
	16:30	医学部中央館地下B02号室に約30名、B03号室に約30名がおり、大講堂封鎖につき討論している模様
	17:50	医学部中央館地下B02号室、B03号室に集合していた学生約60名は各室にそれぞれ5名位を残して解散。 なおエレベーター前にあった本日の302号室の会合の予定は消され、新たに次の予定が記載されている。 6月7日午後7時~333号室 43クラス会
	19:30	上記43クラス会のため12~13名集合。
	20:00	医学部本館前に立看板あり。 ストライキ5カ月、処分3カ月 総長、医学部教授会、評議会責任回避 もはやまつ時期は終わった。 時計台斗争、6月国ボ斗争
	21:00	医学部中央館3階の43クラス会出席者は、5~6名に減った模様

6月8日(土)		医学部長、病院長談話を掲示
---------	--	---------------

6月9日(日)	17:45	医学部中央館3階302号室に約10名の学生がいる。
---------	-------	---------------------------

21:00	学生は逐次増え 35～36 名になる。なお学生は、横浜 3633 白色の乗用車および赤色のスポーツカーで大講堂周辺のパトロールを行なっている。
22:00	学生の出入があり、医、中央館に 45 名位いる模様
22:15	病院外来玄関周辺に「評議会、教授会の大学専制支配を許すな」等と記載したビラはりを行なう。 医学部本館前に総長への通告と記した立看板を出す。 <ul style="list-style-type: none"> 研修問題および不当処分について抗議し、 また次の要求を述べている。 <ul style="list-style-type: none"> ① 処分白紙撤回 ② スト全般に関し追加処分を行なわない。 ③ 以上の 2 項目が認められたのち、医教授会と全員会見の場において研修問題について話し合いで決める。
23:10	大講堂周辺を学生 4 名位が監視している。(うち 1 名は自転車)その後正面玄関をたたく。
0:00	ヘルメット姿の学生 15～16 名が角材をもって病院方面へ向う。先頭に兎玉和夫がみられた。

6 月 10 日 (月)	0:15	学生 15～16 名が大講堂玄関を角材でたたき、その後、庶務部入口の扉をたたき、鍵金具を壊してもちさり、その後病院外来玄関および 2 階内科受付に 「斗争の圧殺によって当局がその不当な立場を守り通さんと考えているなら間違っている」 「評議会、教授会の大学専制を許すな」等のビラを貼り、午前 1 時頃医学部中央館に戻る。
	10:30	医学部中央館地下 B03 号室には学生 4 名、3 階 310 号室には 20 名位がいる模様
	12:25	同館 B02 号室に 10 名、302 号室に 15 名位いる。
	13:00	同館エレベーター前予定板に下記の記載あり。 <ul style="list-style-type: none"> { 6 月 10 日午後 1 時 全学討論会
	13:17～20:00	B02 号室 (M 3 クラス会) 50 名位集合
	13:17～19:40	B03 号室 (M 2 クラス会) 50 名位集合
	13:17～18:55	302 号室 (M 1 クラスシンポジウム) 40 名位集合 以上のクラス会において兎玉和夫 (M 3) が説明を行なった。
	20:00	3 階 310 号室に M 3 クラス会解散後残留者 15 名位が加わり、約 30 名がいる模様。
	23:00	白ヘルメットの学生 3～4 名により、病院外来棟の 1 階を除く各階の柱、壁、受付窓口等に主として下記趣旨のビラを貼る。 <ul style="list-style-type: none"> ・処分即刻撤回せよ。研協(病院との基本的労働協約)認めよ。 医学部全学斗争委 ・我々は断固勝利する。時計台占拠で闘うぞ。医学部全学斗 ・当局の「ストがつぶれるまで待つ」方針、教授オログ団によるオドシ・スカシ学生一本釣り工作……の醜悪さを糾弾せよ

		我々は時計台占拠で闘うのみ ・ 斗争の圧殺によって当局がその不当な立場を守り通せると考えているならそれはまちがっている。	医学部全学斗委 医学部全学斗委
6月11日(火)	2:04	医、中央館前に学生約20名が角材、バール等を持ち集合、大講堂に向い、同2時5分頃大講堂正面玄関の木製扉の差込み柱4本のうち2本を破壊し、さらに朱墨汁で同玄関石造りアーケードに「不当処分反対」「処分白紙撤回」と書き、学生部入口の扉の錠金具をなぐりとり、その後病院方向にデモを行ない、病院前でシュプレヒコールを行ない同2時50分頃医、中央館に戻った。また別に学生4～5名が同2時13分頃医学部本館正面玄関の柱、天井、教室の表札等に朱墨汁で落書きを行なった。	
	10:00	学部長会議開催(生研)	
	10:20	医、中央館3階には学生30名位いる模様	
	11:05	同館エレベーター前行事予定板に下記の記載あり 6月11日午後7時333号室 43クラス会	
	13:30	学部長会議終了。	
	17:35～20:00	医、中央館B02号室(M2クラス会)40～50名位	
	17:35～20:00	〃 302号室(M1クラス会)20～30名位	
	20:00～23:55	〃 303号室(43クラス会)30名位 (43クラス会においては相当激論が行われた模様)	
	21:30	医、中央館玄関前に自動車2台駐車、食糧を搬入している模様。なお同館横の駐車場には11台駐車している。 [注](この時間は、通常2～3台であり、今迄の例では車の多いときは問題が起きている。)	
	21:50	8時頃ヘルメット40個を搬入した旨の情報が学生課長から入った。	
	22:55	学生は自動車2～3台で学内パトロールを行なっている。	
	23:20～1:00	学生6～8名により病院外来棟1階を除く各階の柱、壁、受付窓口および診療指示板等に主として下記の趣旨を赤ペンキで大書した。 { ・ 処分白紙撤回 ・ 外来封鎖 ・ 病院封鎖 ・ 中央手術部封鎖 ・ 中尾、吉利、上田ヤルゾ ・ 三内科粉碎 ・ 上田、豊川殺せ ・ 大河内は辞任せよ ・ すべての無給医よ起て ・ 徹底抗戦 ・ 上田、豊川、佐野覚悟 ・ 豊倉は自己批判	

6月12日(水)	13:35	医学部本館に学生3名がビラ貼りを行なう。 { 外来封鎖、中央手術部封鎖 { 中央検査部封鎖
	14:10	医学部中央館3階には約20名の学生がいる。
	14:10	同館エレベーター前行事予定板に下記の記載あり。 { 12日午後1時 B02号室 M2クラス会 { B03号室 M1クラス会 { 300号室 M3クラス会 { 同日午後7時 333号室 43クラス会 なお、集合状況 { 地下 B02(M2クラス会) 45名 { ♪ B03(M1クラス会) 40名 { 3階 300(M3クラス会) 20名
	16:10	医、中央館食堂に約25名おり、この中にはデモの時は先頭にたつ者の顔がみえる。 3階300号室(M3クラス会)では高声で討論しているのが、下の道路まで聞える。 医(志村氏)の話、昨日までの情報ではM1、M2、M3の各クラス会では時計台封鎖について否決されていた。なお、執行部は角材、名簿を用意している模様。
	18:40	B02号室のM2クラス会終了
	19:55	各クラス会集合状況 { 3階 300号室 M3 7名 { ♪ 302号室 20名 { ♪ 333号室 43 30名 { 地下 B02号室 M2 30名 { ♪ B03号室 M1 30名 医、中央館前に自動車2台、同館横駐車場12台駐車
	20:10	医、中央館から20名位赤門に出る。
	20:40	同じく30名位赤門方面に出る。
	22:10	学生が自動車に強力投光器を取りつけ、医、中央館横でテストを行なう。
	22:20	同館地下各室には学生の姿は見当らなくなり、3階も30名程度になった。 M3クラス会場の黒板に次の記載あり。 { 時計台の封鎖実現へ { ②を受入れ期限を区切れ { M4クラス会決議
	0:00	学生2名が角材10本搬入した。
	6月13日(木)	10:00
11:15		学部長・研究所長懇談会開催(航研) 医学部中央館の学生集会等状況

13:00 ~ 19:00	地下 B02 号室 M 3 クラス会 30 人
13:00 ~ 19:05	地下 B03 号室 M 2 クラス会 40 人 (B03 号室の黒板には①教授オルグ②各学年現状分析と記載されている。)
15:00 ~ 19:40	3 階 302 号室 新 M 1 旧 M 1 M 3 100 人 (討論会の話の一部をきいたところ「我々は医者になろうとなんかは毛頭考えてはいない。思想と斗争を指導して行く。」と言うような発言者あり。)
15:00	3 階 333 号室 10 人
16:00	学部長・研究所長懇談会終了
19:35	医学部中央館 3 階 303 号室には執行部 4 人がいる。また同館横駐車場には 15 ~ 16 台駐車
19:40	同館に他大学の学生と思われるもの 7 人が入る。
19:45 ~ 20:20	同館に学生約 29 人 (内女子 3 人) が入る。
21:45	医科歯科大学のリーダー油井泰雄がきた。
23:05 ~ 24:00	同館内の学生は約 70 人位となり、激しい討論を行ない、一部の学生どうしのなぐり合いがあった模様。

6 月 14 日 (金)	2:00	学生 29 人 (内赤ヘルメット 20 人) が角材・鉄パイプ、スパナ等を持ち、大講堂正面玄関および各入口に押しかけ扉等をたたき、次の被害があった。 { ①庶務部入口扉のとして、鉄鋏等を取りさる。 ②経理部入口扉の鉄鋏を取りさる。 ③学生部入口扉木部が破損また鉄鋏を取りさる。 ④正面玄関扉曲る。
	2:30	学生は医学部中央館に戻る。
	14:50	医学部中央館の学生集合状況 地下 B02 号室 20 人 ♪ B03 号室 30 人 3 階 300 号室 30 人 ♪ 302 号室 (M 1) 80 人 ♪ 333 号室 6 人
	19:00	地下 B02 号室 0 ♪ B03 号室 6 人 3 階 300 号室 (M 1) 50 人 ♪ 302 号室 40 人 ♪ 333 号室 (43) 5 ~ 6 人 医学部中央館横駐車場には自動車 20 台が駐車
	21:00	3 階 300 号室 (M 1) 50 人 ♪ 302 号室 80 人 ♪ 333 号室 (43) 20 ~ 30 人位
	21:10	医学部中央館から学生 60 ~ 70 人位が出る。
	23:15	同じく 30 人、次に 20 人位が出る。

	23:20	自動車7～8台に分乗して20人位が竜岡門から出る。
6月15日(土)	0:10	自動車1台に学生4人が乗り学内をパトロールしている。
	0:30	医学部中央館から学生25人位が出て竜岡門あるいは赤門方面へ分散していった。帰宅する者と思われる。同館に残っている学生は14～15人
	2:25	学生3人が大講堂正面玄関近辺をパトロールしている。
	3:15	学生5人(内1人は女子)が大講堂前を通り正門から赤門方面へ行った。
	3:40	医学部中央館から学生3人が出て竜岡門からお茶の水方面に行った。
	4:55	医学部より学生約80人位がヘルメット姿で角材を持ち、大講堂に向ったとの電話連絡あり、大講堂正面玄関に自動車1台が着く。
	5:00	学生約80人位(医科歯科大の学生を含む)が赤ヘルメット、覆面姿で角材を持ち、大講堂正面玄関の扉を破壊し、乱入、角材を振り職員を追い出す。 これを制止しようとした庶務部長に角材で暴行。両腕に負傷させ、総長室、庶務部長室、大講堂、第1会議室、第2会議室、小会議室の扉を次々に破壊し、さらに庶務部、経理部の事務室等に侵入し、机、椅子、ロッカー等を持ち出し、大講堂の各入口内側にバリケードを築いて大講堂の占拠を行う。
	5:10	大講堂の電話停止
	5:30	庶務部、経理部の事務部門一部を施設部会議室に移し、各所へ電話連絡を行う。
	5:30	医科歯科大学のリーダー油井泰雄が庶務部入口にきた。
	5:55	大講堂への送電を停止
	6:05	(本富士警察署 宮川氏から連絡あり) 大講堂占拠の学生は、医科歯科大学に集合し、ヘルメット姿で角材を持ち竜岡門より入構した。
	6:15	内部占拠中の学生3人が学生部警備掛員室にきて、同室の明渡しを要求する。
	6:20	学生多数が角材を持ち、警備掛員室にきて角材を振り警備員4人が負傷した。同室占拠で大講堂を完全占拠する。
	6:30	乗用車(多摩る324 運転者女子)(眼鏡をかけていた) 中型トラック(足立れ6776)が庶務部入口に到着。 角材多数、墨汁等の梱包を搬入する。
	6:35	庶務部長、学生に事務職員を大講堂に入れるよう申し入れる。
	6:35	学生は、総長室窓際にマイクを備えつけ、演説を行う。
	6:35	学部長会議開催を電話連絡
	7:00	総長室において学生側は責任者会議を始める。
	7:05	経理部給与掛事務室に学生が集り、ロッカー、机、等でバリケード

	ドを築き始める。
7:10	医科歯科大学へ事態を電話連絡
7:10	学生委員会開催を電話連絡
7:50	大講堂小会議室ベランダに赤旗1本を立て、また総長室窓から赤旗1本を出し、また「医学部処分白紙撤回」と記したたれ幕を出す。
8:00	大講堂へのガス供給停止
8:05	総長到着
8:30	学生27人が庶務入口から出て大講堂を一周デモを行なう。
8:35	学生部長が、学生の指揮者 中 佳一 (M4退学) に建物退去を指示したが、他の学生が角材で学生部長の左腿を叩き、また数人の学生が角材で脇腹をこづいた。学生部長はさらに油井に「医科歯科大学の油井君占拠を止めなさい。」と指示した。
8:50	大講堂正面玄関前、庶務部入口および学生部入口の3ヶ所に学生の退去通告の立看板を出す。 { [本部建物を占拠している学生は直ちに退去しなさい。 東京大学]
8:50	学生の退去を通告する立看板の写真を撮影する。
9:00	庶務部入口の上記立看板を学生が壊す。
9:00	学部長会議開催 (農)
10:00	医学部事務室に旧M2の学生がきてクラス会を開催するため会場の借用を申し出た。
10:00	前田和甫 (医) 助教授が構内郵便局で、学生 (旧M2) が「クラス会決定を無視し、一部学生が時計台占拠、クラス会を開く、出席せよ」との電報を打っているのを目撃した。
10:00	学生委員会開催 (法)
10:45	学部長会議終了
11:12	庶務部入口で学生7~8人が児玉和夫 (M3退学) を取りまき話をしている。2人の学生が「模様を知らせないで電話で呼び出して何んだ。」とどなった。 赤ヘルメット姿の学生が「窓から中に入れ」とどなっていたが、これは振りむくだけで無視していた。
12:00	学生委員会終了
13:30	学部長会議開催 (医科研)
15:00	学生委員会開催 (法)
16:40	医学部中央館3階302号室にて学生40人位が集会 (学年不明) クラス決議を無視して行動に入ったことについて討論している模様。
18:30	学生委員会終了
19:30	学部長会議終了
20:50	大講堂正面で医学部学生 (M1~M4) 約150人が不法占拠をつづける学生を説得している。

		<p>内容 [M 1 ~ M 4 までの合同クラス会において、大講堂占拠中の学生に速やかに撤収して貰うことを決議した。我々の戦列に復帰して話し合いを行なえ、なお、占拠中の学生が午後 10 時までには話し合いに応じなければ、重大な決議をしなければならないと呼びかけている。]</p>
21:20		説得側の学生は大講堂周辺をデモし、入口をさがしている模様。
22:00		<p>説得側の学生は決議文「直ちに我々の戦列に復帰し、一致団結して我々の目的を勝ちとろう。」を読み上げ、我々の決議に応じなければ、本日君達のとった行動を学内外に公表する旨を述べたが、占拠側の学生の応答なし、そこで明 16 日 (日) さらに各クラス会および合同クラス会を開き説得を行なうことになった模様 (決議文、125 人により討論賛成 116、棄権 4、白票 2)</p>
22:30		医学部中央館 3 階 302 号室 20 ~ 30 人位が討論している。
23:00		説得側の学生退去

6 月 16 日 (日)	10:45	医学部中央館 3 階には泊り込み学生が 20 ~ 30 人位がいる。
	12:00	医学部告示および医学部長談話を医学部本館前および病院前に掲示した。
	13:00	<p>大講堂占拠中の学生に対し、庶務部職員がマイクを使い、庶務、経理、学生の各部の入口および大講堂正面玄関の左右の 5ヶ所において退去通告を 5 回連呼する。</p> <p>「占拠している学生諸君、安田講堂は私たちの職場です。明日からの仕事にさしつかえますから、今直ちに退去なさい。事務局長より通告します。」</p>
	14:00	同通告 3 回連呼
	15:00	同通告 3 回連呼したところ、大講堂周辺にいた学生 5 ~ 6 人が「呼びかけするくらいなら総長を呼べ」と追ってきた。
	15:50	医学部中央館には 68 人位の学生が集合
	19:40	学生 (M 1, M 2) 約 40 ~ 60 人が、処分反対のシュプレヒコールを医学部本館前でやない、大講堂に向い占拠中の学生に「占拠しているのは我々の運動の邪魔である。早く出てくれ。」と呼びかけていたが、その後自然に解散した。
	21:50	赤ヘルメットの学生 3 人が退去通告の立看板を壊してまわる。
	22:30	角材をもった学生が大講堂周辺のパトロールを行なう。
	23:45	同様に学生 11 人が施設部附近のパトロールを行なう。

6 月 17 日 (月)	1:00	学生は 2 人一組となって経理部給与掛窓口から出入し、パトロールを継続している。
	4:00	学生 20 ~ 30 人位庶務部入口より御殿下グランド方向に向う。
	4:35	機動隊等がトラック、パトロール・カー等で竜岡門から入構し、病院前附近に集結 (約 1,200 人)

4:50	<p>機動隊は、大講堂周辺を取りまき、学生部・経理部および庶務部職員等と共に学生部・経理部の事務室窓から大講堂に入り、約2時間15分同講堂内を捜査し、また現場検証を行なった。そのさい、学生の手込んだ角材97本ヘルメット11ヶノコギリ、金槌等が押収された。</p> <p>なお、大講堂内部は、占拠学生のため総長室の扉は破壊され室内は散乱甚しく、各事務室・廊下等は、庶務部学務課および学生部の一部等を除き、机、ロッカー等を積み上げバリケードを築いてあり、各室内は書類、電話器等が床に散乱し、また扉が多数破壊され、職員の私物等も多数持ち去られていた。</p>
5:20	総長告示を各掲示場に貼りだす。
5:30	医学部学生30人位(内赤ヘルメット14)が大講堂南側附近で「機動隊帰れ」と抗議を行なったが機動隊にサンドイッチに規制され、その後竜岡門から出された。
8:30	七者協約300人が銀杏並木に集合、機動隊導入粉碎および医学部の一部学生の大講堂占拠弾劾をさげんで抗議集会を開き、その後午前9時15分から学内デモを行なう。
8:30～9:00	学部長会議開催(航研)
9:00～9:30	臨時評議会開催(航研)
9:45～10:10	総長記者会見(航研)
10:12～11:30	総長、東職、大学院生協議会学生、学部自治会学生、東大寮連と会見(航研)
10:30	大講堂占拠に参加したと思われる学生多数が、医科歯科大学に逃げ込んでいる模様。
10:50	医学部中央館前に学生50人位が集合、隊列を組み、シュプレヒコールを行ないながら医学部本館前を経て大講堂方面に向う。
11:05	<p>同館から学生約27～28人が出て、医学部本館前を経て大講堂方面に向う。内3人は女子(大講堂占拠の際自動車を運転角材等を搬入した女子1人がいる。)</p> <p>なお、残留者が看板等を燃やしている。</p>
11:20	大講堂正面玄関前に医学部学生約75人が集まり、機動隊導入弾劾、処分撤回を叫び抗議集会を開き、その後医学部本館前までデモを行なう。
11:45	経済学部自治会学生約50人大講堂にデモ行進してきた。
12:00	七者協約400人が銀杏並木で再び抗議集会を開き、午後1時50分から学内デモ。
13:05	赤ヘルメット着用の学生約40人が竜岡門から入ってきた。
14:40	三派系学生約450人(駒場からきた学生約150人が加わっている。)大講堂前で集会を開き、その後学内をデモ午後3時5分頃に解散した。
16:00	駒場から学生約400人が到着。本郷キャンパスの三派系学生と合流する。

17:00 ~ 19:30	七者協約 200 人大講堂前で集会を開く。									
18:00 ~ 18:30	三派系学生（駒場からきた学生を含む）約 800 人が学内デモを行ない、医学部中央館前で集会を開く。 児玉和夫（M 3 退学）がアジ演説後、医学部本館から赤門を出て、都電通りをとおり、正門から大学に戻る。 その後、生協食堂裏入口付近で集会し、解散した。									
18:50	医学部中央館の状況 <table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding-left: 10px;">地下</td> <td style="padding-left: 20px;">4 ~ 5 人位</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">3 階 333 号室</td> <td style="padding-left: 20px;">全学共斗決起集会 100 人位</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">3 階 302 号室</td> <td style="padding-left: 20px;">50 人位</td> </tr> </table>	{	地下	4 ~ 5 人位		3 階 333 号室	全学共斗決起集会 100 人位		3 階 302 号室	50 人位
{	地下	4 ~ 5 人位								
	3 階 333 号室	全学共斗決起集会 100 人位								
	3 階 302 号室	50 人位								
20:00 ~ 20:50	医学部中央館 3 階 333 号室で集会中の学生約 70 人が医学部本館前から大講堂に向いデモし、大講堂正面玄関前で 15 分位座り込み集会を行ない戻る。									
20:50	デモから戻った学生は 20 人位いが帰り、約 25 人は午後 9 時 30 分から始まる集会に加わるため 3 階 302 号室に上る。									
21:15	3 階 333 号の集会は終り、約 20 人が残る。 同 302 号室では 30 人位いが集会中、地下には児玉和夫が学生 1 人と話し合いを行なっている。									
22:15	病院外来棟の屋上研修医ルーム付近でドラムカンで紙屑を燃したため、消防車 1 台が火事と間違い入構した。 (医学部紛争に係る証拠品を燃やしたものと思われる。)									

6 月 18 日 (火)	0:30	医学部中央館から学生 30 人位が出て竜岡門方面に向う。
	9:30	(医科歯科大学・原氏から連絡) 昨夜 11 時頃同大共斗会議の学生が乱斗に使用すると思われる牛乳・ジュースの空ビンを集めていた。
	12:00 ~ 13:15	学生自治会中央委員会の学生 12 ~ 15 人位が銀杏並木で機動隊導入の抗議集会を開く。
	12:00	青医連 30 人位が大講堂前で機動隊導入、処分の白紙撤回を呼び集会、その後学内デモに移り大講堂を 1 周し、銀杏並木 - 正門 - 赤門 - 医学部本館 - 医学部中央館のコースで行進、午後 1 時 40 分解散した。
	20:00	医学部中央館地下 B02・B03 号室で約 60 人、3 階 333 号室で約 70 人が集会中。 同館横駐車場には 12 台駐車している。
	20:15	3 階 333 号室の集会は終り数人となった。
	22:00	地下 B02・B03 号室にいた学生が 3 階 302 号室に移動、70 人位が集会を開く。
	23:45	同室でスピーカーを使い、集会を続行している。

6 月 19 日 (水)	0:40	医学部中央館 3 階 302 号室で集会を行っていた学生が竜岡門から 5 人、赤門方面へ 15 人出ていった。
	1:10	約 20 人が 3・3・55 帰宅した模様であり、同館に残っている

	者は20人位と思われる。										
12:30	七者協が銀杏並木で集会を開いたが、参加者少数のため解散した。										
13:00	43青医連の旗を立てた学生26人が大講堂前で集会 30分後デモに移り、警官導入粉碎を呼び大講堂を1周、銀杏並木-赤門-医学部本館-医学部中央館のコースで行進、午後1時50分散した。										
13:50	法文2号館3番教室の法学部学生大会が終了、約200人の学生が銀杏並木で集会後、デモに移り、警官導入反対を呼び、同所から正門-総合図書館-医学部本館-医学部中央館-病院通り-大講堂前のコースで行進、午後2時55分散した。										
17:50	医学部中央館3階333号室入口には、43青医連執行委員会の看板あり。 現在学生の集合状況 <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding-left: 10px;">地下 B02号室 40人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">地下 B03号室 40人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">3階 302号室 50人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">ク 300号室 30人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 10px;">ク 310号室 数人</td> </tr> </table>	{	地下 B02号室 40人		地下 B03号室 40人		3階 302号室 50人		ク 300号室 30人		ク 310号室 数人
{	地下 B02号室 40人										
	地下 B03号室 40人										
	3階 302号室 50人										
	ク 300号室 30人										
	ク 310号室 数人										
17:50	経済学部研究科の大学院生約50人が経済学部前で集会を行ない、シュプレヒコールを行った後デモに移り、医学部本館-医学部中央館-大講堂前のコースで行進、大講堂前で機動隊導入抗議、不当処分の白紙撤回、大河内総長は辞任せよ等と叫び、午後6時10分銀杏並木で解散した。										
18:30	経済学部学生約40人同学部前で集会後デモに移り、医学部本館-アーケード-銀杏並木-大講堂前のコースで行進、午後6時50分散した。										
19:00	法文2号館3番教室の文学部学生大会が終了後、学生約80人(内ヘルメット着用者20人)がデモ、警官導入粉碎、医・文学生処分の撤回を呼び、大講堂前-病院通り-医学部中央館-医学部本館-赤門-電車通り-正門のコースで行進、午後7時45分銀杏並木で解散した。										
19:00	工学部2号館の工学部学生大会が終了、その後デモに移り、工学部3号館-病院通り-医学部中央館-医学部本館-社研-法文2号館-アーケード-大講堂前のコースで行進、午後11時20分散した。										
21:00	医学部中央館地下B02・B03号室のクラス会は終了、約20~30人が雑談、3階では約40人が雑談している。 333号室では43青医連執行委員会が開かれており、関係者以外は立ち入りが禁止されている。 同館横駐車場に福岡ナンバーの車1台あり。										
21:50	福岡ナンバーの車は姿を消す。										
22:10	医学部本館前学生用掲示板に下記の掲示が貼り出された。(午後8時30分頃出したと思われる。)										

		<p>内容、6月17日「医学部教授会と話し合うことを決定した。」 新執行部は全員辞任し、新々執行部が成した。 新々執行部は次の方針を打ち出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総長との大衆団交要求 ②不当処分 of 白紙撤回 ③研修3項目の要求 ④機動隊導入に抗議 ⑤大河内、豊川、上田は責任をとって辞任せよ <p style="text-align: right;">43 青医連</p> <p>(注) これは少数の学生で決定した模様。</p>
	22:30	<p>(医科歯科大学と情報交換) 医科歯科大学では大会議室に学生3人がきて、午後11時までに退去しなければならぬと暴言をはく。そこで当直職員は現在から別室に移動することのこと。</p>
	22:40	<p>午後10時25分某新聞記者が医学部にきて面会した。 学生は午後11時30分に行動を起こす。(何の行動か不明)警戒を要す。病院封鎖も考えられ病院管理課に連絡した。</p>
	23:30	<p>(医科歯科大学と情報交換) 同大学に他大学学生30人位がきて、角材130本青竹130本を自動車で搬出した。どの方面に向ったかは不明である。(注)東大へ来た様子はない(警備掛)</p>
	23:50	<p>医学部中央館地下B03号室30人位、同B02号室(人数不明)討論中、3階は20~30人位が話し合っている。</p>

6月20日(木)	0:25	<p>(医科歯科大学と情報交換) 同大学学生(赤ヘルメット着用)約20人が手にコーラの空ビンをもって出ていった。東大へ向かったのではないかとのこと。</p>
	0:40	<p>医学部本館前で学生がピラハリを行なっている。同館前に2人、社研前に2人の見張りがある。また自動車に乗った者(学生か職員か不明)がライトをつけて足もとを照らしている。</p>
	8:30	<p>経済学部前で学生約20人が、また工学部電子工学科前に約30人がそれぞれピケを張っている。工学部2号館前では約40人が座り込み集会を行なっている。 文学部研究室玄関では机等でバリケードを築いている。</p>
	9:00	<p>各学部の全学ストに対する状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 法学部 午前10時10分から緑会大会を開き討議する。 医学部 スト中 工学部 スト決定 文学部 〃 理学部 保留。午前中学部投票を行なう予定 農学部 時限スト(午前8時~午後2時) 経済学部 スト決定 教養学部 〃 教育学部 〃

	(薬学部 本日千葉大学との交流があり授業なし。
9:15	工学部都市工学科の学生約 30 人が大講堂－理学部 1 号館－病院通り－医学部中央館－医学部本館－赤門－正門－工学部都市工学科のコースをデモ行進を行なう。
9:20	薬学部玄関受付付近に医科歯科大学名のビラが貼られ、時計台再占拠の項目がある。
10:00	医学部中央館地下 B02・B03 号室で学生約 80 人が集会、激論を交している。
10:35	同館前に立看板が出された。 { 内容 M 1、M 4 の一部は自稱する。 { (全学斗は認めないぞ)
11:50	経済学部前学生約 200 人が集会。
12:20	理学部学生約 120 人が構内デモに出発した。
12:30	教養学部学生約 40 人赤門から入る。
12:40～12:58	教養学部からバス 30 台が到着学生約 1800 人がきた模様。
13:25	医学部学生約 150 人大講堂に向う。
13:30	医学部中央館前にライトバン 1 台が到着。 { (多摩ふ 3913) 学生 1 人がおり、さらに医学部中央館に廻り、 { ダンボール 4 個 (白ヘルメット入りと思われる) を下した。
14:00	大講堂前広場で全学集会。約 4500 人が参加。正面玄関前に宣伝カー (品川に 4-83) を駐車。旗 150 本
15:00	医科歯科大学・早稲田大学の学生約 150 人が赤ヘルメット姿で正門から入構し、銀杏並木で集会のあとにつく。
16:00	教養学部学生がこれに対して「帰れ、帰れ」と連呼した。
16:40	医科歯科大学・早稲田大学の学生は法学部アーケードから工学部 6 号館方面に廻ったが引返し、文学部アーケード－総合図書館に向い、その後大講堂南側通り－病院通り－竜岡門のコースで行進し、午後 5 時竜岡門から出構した
18:10	大講堂前の集会を終り、医学部・文学部学生と他学部学生と別れてデモに移る。 デモは大講堂周辺を一周し、病院通り－医学部中央館－医学部本館－赤門－電車通り－正門－銀杏並木のコースで行進した。
18:30	赤門方面からきた東職約 450 人が法文 2 号館横の芝生で抗議集会を開いたが、午後 7 時頃デモに移る。
18:35～19:25	学生代表 7 人が学生部長室において、藤井理学部長、学生部長と会見。①機動隊導入の経緯と責任を明らかにせよ。②医学部の学生の処分の白紙撤回。③総長と評議会は大眾団交に応ずること。以上につき 6 月 21 日正午までに大学側は誠意ある回答することの集会決議書を手交した。
19:00	学生のデモ隊は大講堂前に戻り、農学部、理学部地球物理の学生を除く大部分がブロック別に集会を行なう。
19:50	医学部中央館に赤ヘルメット姿の学生約 40 人が戻る。

20:35	大講堂前の集会は殆ど解散。法文2号館前芝生に2グループ(約30～40人)が討論している程度になった。
21:25	(医科歯科大学梅沢庶務部長からの連絡)
	午後8時頃同大学の学生が占拠している室に電灯がつき、15～16人が戻った模様である。明日午後1時から中央大学において社学同が「アスパック(アジア太平洋閣僚会議・7月豪州キャンベラで開催される。)」反対の集会を行ない、その後外務省に向けデモすることになっているので注意している。
22:04	医学部中央館から学生19人が赤門へ、5人が竜岡門に向かって出た。
23:20	医学部中央館に残っている学生は10人位となった模様。

6月21日(金)	0:20	文学部大学院学生約15人、文学部国史学研究室から旗2本、プラカード10本を持ち出て、大講堂周辺-病院通り-医学部中央館-医学部本館のコースでデモ行進し、文学部国史学研究室に戻る。
	0:40	43青医連・文学部スト実行委・文学部学友会の学生約15人(内黄ヘル3、赤ヘル1)旗3本を立て大講堂前で集会を行ない、午後2時15分頃解散した。
	1:00	学生部長が学生代表14人と学生部長室において会見し、前日の学生集会の決議書の件につき話し合った。
	2:10	経済学部学生約50人青旗2本を持ち正門-大講堂前-病院通り-医学部中央館-医学部本館をデモ行進し、午後2時30分頃経済学部に戻る。
	4:20	文学部(倫理)学生16人が大講堂前で集会を行なったが午後4時30分解散した。
	4:45	医学部中央館から学生約40人が出て医学部本館-赤門-正門-大講堂(1周)病院通りのコースでデモ行進し、午後5時15分医学部中央館に戻る。
	18:00	午後1時頃から中央大学において社学同学生「アスパック(アジア太平洋閣僚会議)反対集会を開き、約500人が集会後、東京・お茶の水の学生街バス通りで騒ぎ、午後5時すぎから出動した機動隊と激しい乱斗が行なわれ、国電の運行も混乱しているとの情報が入った。このため本郷構内各部局の宿直者等に対し、厳重な警戒体制と戸締りを指示した。
	19:00	午後5時頃から民青系学生30人位が大講堂前に集り、その後約150人に増加。大講堂前の両側芝生に分れて集結し、三派系学生に対し、警戒のため待機していたが、午後9時頃までに解散した。
	19:15	経済学部学生約15人青旗2本、赤旗1本、横断幕を持ち、大講堂前にきて「処分の白紙撤回と総長は辞任せよ」とのシュプレヒコールを行ない、午後7時30分経済学部に戻る。
	21:20	お茶の水駅付近で騒いでいた社学同学生は逐次退散した。

	22:15	上記に関する警戒体制を解き、宿直者以外の帰宅を各部局に指示した。
6月22日(土)	10:00	医学部中央館3階333号室に学生約12人がいる。地下は零
	11:00	同館地下B03号室黒板に下記の記載あり。 { 6月24日午後1時 全学斗再建について 議長団
	11:00	同館横駐車場には18台駐車している。
	12:00	同館3階302号室に5～6人位、333号室には5人位の学生がいる
	13:35	文学部学生11人(内女子1)文学部研究室を出て正門、赤門附近をデモ後、医学部本館に行き、医学部長に面会を求めたが断われ、文学部研究室に戻る。
	16:00	同館地下B02号室10人位、同3階302号室20人位、333号室5～6人位がいる。
	16:15	B02号室の10人位は医学部中央館を出る。 302号室は13人位となり討論中。
	16:20	(本富士警察署からの情報) 6月23日の青医連および医学連の医師国家試験統一行動について { 午前 7時50分 大塚公園集合 午前 8時 集会 ♪ 8時30分～9時デモ、大塚公園出発－教育大学前－ 拓殖大学正門－礪川公園 申請人員 50人 届出責任者 大淵辰雄(東大医・42卒) 現場責任者 木下審一郎
	18:20	医学部中央館内に医学部保健学科3年、4年合同クラス会の決議書が貼り出された。 内容 { ①機動隊導入抗議 ②総長および大学当局の責任追求 ③占拠した学生の行動は許せない。 今後これらの学生が民主的ルールに従うことを要求する。 ④処分の白紙撤回 ⑤豊川・上田は辞職せよ。 ⑥この様な事態を招いた教授会は全学に謝罪せよ。
	18:54	医学部中央館から学生約25人(白・赤ヘルメット14)赤旗(M1, M2)を立て学内をデモ。医学部本館－文学部研究室－大講堂前－病院前のコースで行進し、午後7時15分頃同館に戻り、内10人位は帰宅、残り15人位は3階に上る。
20:30	学生3人同館に入り、3階へ	
20:37	学生18人赤門方面へ出る。また3人が自動車で竜岡門から出る。	

21:50	学生 8 人赤門方面から戻り、同館に入る。
22:03	同館地下 B02 号室 6 人、同 3 階 302 号室に 13 人がいる。
23:15	学生 11 人が帰宅。同館に残っている者は約 20 人と思われる。
0:00	同館横駐車場 5 台が駐車している。

6 月 23 日 (日)	8:00	学生が医学部中央館に集合、本日の医師国家試験阻止行動のため集団で出発した形跡は見られない。 (医師国家試験試験場 (拓殖大学) 附近の状況)
	8:00	青医連、医学連学生約 140 人大塚公園に集合
	8:30	拓殖大学に向いデモに移ったが、その後地下鉄茗荷谷駅付近で機動隊ともみ合い、4 人が逮捕された。
	10:00	礪川公園で解散した。
	10:00	医学部中央館地下 B02・B03 号室学生零。 3 階 310 号室には前夜からの泊り込み学生数人がいる模様。
	17:50	(医科歯科大学からの連絡) 医科歯科大学では、午前 8 時頃学生 40 人位がいたが、全員拓殖大学のデモに参加のため出かけた。 午前 11 時頃には 30 人が戻り、つづいて 10 人が戻ったが、その後大部分が帰宅し、現在大学内部は平静。なお数人白衣を着た学生が残っている。
	18:00	経済学部・教育学部の学生合わせて約 30 人が教育学部自治会室で口論し、そのうち 1 人が暴力を振ったので騒いだが、午後 7 時頃一応平静に戻り、午後 7 時 30 分頃解散した。
	19:35	医学部中央館に学生 2 人が入る。
	19:40	同 6 人が入る。
22:30	同館地階各室学生零、3 階には約 10 人がいる模様。	

6 月 24 日 (月)	9:50	医学部中央館地下各室学生零、3 階 333 号室、310 号室合わせて 10 数人がいる模様。								
	10:00	研究所長会議開催 (生研)								
	10:15	学部長会議開催 (医科研)								
	12:15	自動車 (白 No3505) で白ヘルメット 10 ヶを医学部中央館に搬入。								
	12:15	研究所長会議終了。(生研)								
	12:30	学生自治会中央委の立看板が銀杏並木にあり、それに下記の日程が記載されている。 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td>6 月 26 日 学生大会</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>〃 27 日 代議員会</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>〃 28 日 大学側回答書討議 スト校確立</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>〃 29 日 全学スト</td> </tr> </table>	{	6 月 26 日 学生大会	}	〃 27 日 代議員会	}	〃 28 日 大学側回答書討議 スト校確立	}	〃 29 日 全学スト
	{	6 月 26 日 学生大会								
	}	〃 27 日 代議員会								
}	〃 28 日 大学側回答書討議 スト校確立									
}	〃 29 日 全学スト									
12:35	工学部学生約 130 人横断幕とプラカード 30 本を持ち、工学部									

		2号館附近からデモ。正門－赤門－医学部本館－医学部中央館（午後0時57分頃通過、3階窓から学生10人位が顔を出し拍手した。）－病院通り－大講堂前－銀杏並木のコースで行進し、午後1時10分頃工学部2号館に戻る。
13:10		医学部中央館3階窓から学生が「我々は時計台再占拠で戦うぞ」とのビラを散布した。
14:05～15:25		学生部長が学生代表（三派系）6人と学生部長室において会見。
15:05		医学部中央館の学生の集合状況。 { 地下B02号室 M3クラス会 20人 ♪ B03号室 M2クラス会 30人 3階300号室 20人 ♪ 301号室 数人
15:10		学部長会議終了（医科研）
15:50～17:00		大学院協議会開催（生研）
17:00		医学部中央館から学生約40人が青旗3本、（内M3 2本）プラカード12本を持ちデモ、医学部本館－赤門－正門－銀杏並木－大講堂前－病院通りのコースで行進、午後5時30分医学部中央館に戻り、その後約10人を残し、他は赤門および竜岡門から帰る。
18:50		医学部中央館3階および屋上から学生が「我々は時計台再占拠で闘うぞ」とのビラを再散布した。
21:19		午後7時頃医学部中央館地階に下記内容の貼紙があったが、午後9時15分頃には破りすてられていた。 [6月20日全学斗争委の席上で斗争委員2人が「暴力も言葉の一つだ」と言ってけられた。我々は医学部学生・研修生と一緒に闘っている。 今後この様なことがないように決議する。 M2クラス決議 34:0:1:8]
23:15		医学部中央館3階333号室には約20人がいる模様。なお、同館玄関前に東京新聞の車が駐車している。

6月25日（火）	0:30	医学部中央館から学生約10人が竜岡門方面に出る。
	9:50	同館地下各室には学生零、3階333号室に泊り込み学生12～13人位がいる模様。
	10:13	学部長会議開催（医科研）
	10:20	医学部中央館地下B03号室黒板に下記の記載あり。 { ①6月25日 午後1時 全学へオルグ（注）学生と教官双方へ派遣するものと思われる。 ②6月26日 午後1時 M2 クラス会
	10:30	医学部において「医学部の異常事態について」と題する印刷物を医学部学生、42研修生その他教官等に配布した。

13:05	学生会本郷分館隣の国大協事務所の入口扉のガラスが何者かの投石か、または角材でたたいたかによりヒビ割れが入っているのを発見した。
14:16	学部長会議終了（医科研）
15:15	医学部中央館の学生集合状況 { 地下 B02 号室 児玉和夫 1 人 地下 B03 号室 12 人 3 階 310 号室 不明 ♪ 333 号室 零 ♪ 302 号室 20 人
15:00 ~ 19:00	文学部学生大会が行なわれ無期限ストを決議した。
15:50	総長談話全学に掲示
19:00	医学部中央館地下 B02 号室には学生 30 人位がいたが一部は帰る。残りは 3 階に上り 310 号室は 25 人位となる。
19:20	文学部学生約 120 人位白ヘルメット着用者多数を先頭にデモ、法文 2 号室 - 大講堂前 - 病院通り - 医学部中央館 - 医学部本館 - 社研通りのコースで行進、午後 7 時 45 分頃法文 2 号館に戻る。
20:30	(医科歯科大学からの連絡) 学内は平静である。
22:00	医学部中央館から学生 12 ~ 13 人位が出て竜岡門方面に向う。

6 月 26 日 (水)	8:05	文学部学生が法文 1 号館、文学部教室入口および法文 2 号館研究室入口に机、椅子等でバリケードを築きビケを張る。 各学部の学生大会予定 { 法学部 午前 10 時 工学部 午後 1 時 理学部 ♪ 5 時 農学部 ♪ 3 時 経済学部 ♪ 5 時 教育学部 午後 1 時 ~ 同 3 時 教官と学生の懇話会 ♪ 3 時 学生大会 教養学部 不明 なお、薬学部は前日午後 1 時から定例学生大会を開催した。
	10:40	医学部中央館の学生集合状況 { 地下 B04 号室 10 人位 3 階には 4 ~ 5 人
	12:00	(医科歯科大学からの連絡) 油井泰雄 (医科歯科大学リーダー) が資料らしきものを持ち東大方面に出る。
	13:00	医学部中央館地下に学生 10 人位、3 階には 30 人位がいる。医学部本館に文学部学生 20 人位が抗議に押しかけた。
	13:50	医学部中央館の学生集合状況

		<p>{ 地下 B03 号室 M 2 クラス会 30 人位 3 階 302 号室 約 30 ~ 40 人が討論。</p>
14:10		文学部学生 100 人位がデモ、銀杏並木 - 大講堂前 - 病院通り - 医学部中央館 - 医学部本館のコースで行進、午後 2 時 40 分頃銀杏並木に戻る。
14:35		(医科歯科大学からの連絡) 学生の出入が激しい。
16:10		経済学部大学院学生 68 人デモ、赤門 - 総合図書館 - 銀杏並木 - 大講堂前 - 病院通り - 医学部本館 - 社研のコースで行進、午後 4 時 25 分散散した。
16:45		医学部中央館の学生集合状況 <p>{ 地下 B02 号室 M 3 クラス会 50 人位 " B03 号室 M 2 クラス会 40 人位 3 階 302 号室 20 ~ 40 位討論</p>
18:00		(医科歯科大学からの連絡) 学内は平静である。
19:25		医学部中央館から学生 30 人位が出て、デモ、医学部本館 - 経済学部 - 赤門 - 正門 - 銀杏並木 - 大講堂前 - 工学部 8 号館 - 陸橋 - アークード - 医学部本館のコースで行進。午後 7 時 55 分頃医学部中央館に戻り、内 15 人が竜岡門あるいは赤門から出て帰る。
20:00		医学部中央館地下には学生 20 人位、3 階に 30 人位がいる。
21:00		経済学部大学院ストに突入。
22:00		医学部地下各室零、3 階には泊り込むと思われる学生 12 ~ 13 人位がいる。

6月27日(木)	8:30	新聞研無期限スト突入。
	8:30	経済学部大学院無期限スト突入
	10:30	(医科歯科大学からの連絡) 学内の動きは特になし。
	10:35	医学部中央館 3 階には学生 12 ~ 13 人位が雑談している。
	11:15	文学部学生 法文 1 号館および 2 号館の各入口のピケを続行し、入場者と口論をしている。
	11:19	評議会開催 (医科研)
	11:20	文学部前立看板あり。 内容 6 月 28 日全学バリケードで時計台再占拠
	11:45	医学部中央館 3 階 302 号室で学生約 60 人位が総立ちで口論している。
	12:35	経済学部学生約 20 人位が経済学部前で氣勢をあげ社研方面へ向う。
	12:45	教育学部学生約 12 ~ 13 人位が教育学部前に集合し、正門方面にデモ。

12:55	工学部学生約 120 人位が工学部 5 号館付近でデモ、正門－赤門－医学部本館－医学部中央館－病院通り－大講堂前－銀杏並木のコースで行進、午後 1 時 20 分頃工学部 5 号館に戻る。
13:00	七者協約 30 人位大講堂前でデモ
15:50	医学部中央館の学生集合状況 { 地下 B02 号室 30 人位 ♪ B03 号室 30 人位 3 階 302 号室 60 人位 以上の各室でクラス会が開かれている模様。
16:15	評議会終了
17:15	医学部中央館の学生集合状況 { 地下 B02 号室 50 人位 ♪ B03 号室 50 人位 3 階 302 号室 80 人位
18:00	赤門付近で医科歯科大学の油井泰雄外 1 人が青ジャンパー姿でハンドマイクを使い、帰途の教職員、学生に印刷物を 30 円で販売している。
19:25	医学部中央館から学生 (M 1) 15 ~ 16 人が赤旗をもち医学部本館前を通り大講堂方面に向う。
19:40	文学部学生 16 人白ヘルメット姿で大講堂周辺をデモ
21:10	医学部中央館の学生集合状況 { 3 階 302 号室 30 人位 ♪ 310 号室 10 ~ 15 人位
0:00	大講堂および文学部周辺 2 ~ 3 ヶ所に学生 10 ~ 15 人位がいる。

6 月 28 日 (金)	9:42	学部長会議開催 (医科研)
	10:49	♪ 終了 (♪)
	10:54	評議会開催 (医科研)
	10:54	医学部中央館前に立看板あり。 { 内容 11 時 333 号室全学総決起集会 斗争勝利は今こそ M 1、M 4、43 青医連 闘う全学友は結集せよ
	10:54	同館 3 階には学生 10 数人いる。
	10:54	大講堂前に立看板あり { 内容、全学総決起集会 12 時、大講堂集会 1 時、時計台抗議集会 2 時、総長団交 文学部、経済学部スト実行委
	11:00	医学部中央館内に掲示あり。 { 新 M 1 クラス決議。 全学無期限ストを医から呼びかけ。

	<p>オルグを出す。 医教授会路線は粉碎された。</p>
11:00	<p>医学部中央館の学生の集合状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下 B03 号室 M 2 30 人位 3 階 333 号室 M 1、M 4、43 青医連 50 人位 〃 310 号室 15 人位。
11:30	<p>東院協学生約 50 人位大講堂前で集会、その後 80 人位となる。</p>
11:50	<p>教育学部学生約 30 人位同学部前に【で】*集会後デモし、大講堂に向う。 ※「に」を「で」に修正あり</p>
11:50	<p>医学部中央館の学生集合状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下 B03 号室 M 2 40 人位 3 階 333 号室 M 1、M 4、43 青医連約 50 人位 〃 302 号室 30 人位
12:07	<p>経済学部学生約 80 人位が医学部本館 - 医学部中央館 - 病院通りのコースでデモ大講堂に向う。</p>
12:20	<p>理学部学生約 120 人位が理学部 - 病院通り - 医学部中央館 - 医学部本館 - 赤門 - 正門 - 銀杏並木のコースでデモ大講堂に向う。</p>
13:05	<p>医学部中央館の学生 50 人位 (内ヘルメット着用 30 人) が医学部本館前を通り大講堂に向う。(児玉三吉がいる)</p>
13:08	<p>評議会終了 (医科研)</p>
13:30	<p>大講堂前で集会中の反民青系学生が教官入口となっている正面玄関から大講堂に入り、ヘルメット姿の文学部学友会執行部と医学部全学斗旧執行部の学生が壇上のマイクを占拠、その他の学生は最前列に座り込む。 一般の学生は整然と庶務部および学生部入口から入場したが、演壇付近を見て「ヘルメット帰れ」と叫んでいた。</p>
13:36	<p>教官の 1 部が入場したが、学生は教官に向かって盛んにヤジを飛ばす。 壇上ではマイクを使い文学部学友会委員長の加藤と 43 青医連の今井が次々と演説を行なう。</p>
14:00	<p>大講堂内は約 3,000 人位が入り満員となる。</p>
14:15	<p>あふれた学生、教職員は法文 25 番教室、同 31 番教室、大講堂前広場に約 3,000 人位が分散して集会に参加した。</p>
14:40	<p>学生側は議長団に福本勝行 (文学部 3 類 4 年)、尾花清 (教育学部教育学科 4 年)、今村俊一 (教養学部文科 3 類 2 年) を選出した。 大学側は議長団に高野雄一法学部教授、館竜一郎経済学部教授、山田浩一農学部教授、裏田武夫教育学部助教授が加わった。</p>
14:53	<p>大河内総長が福田歓一法学部教授、佐々木智也保健センター助教授とともに入場した。一般学生は拍手で迎え反民青系学生に「ヘルメット帰え。」と叫ぶ。このため一部はヘルメットを脱ぐ。</p>

	<p>総長が壇上から「私は入院中で、2時間だけ医者の許可を得てこゝにきた。」と述べ、原稿を取り出すと、ヘルメットの学生がこれをもぎ取った。</p> <p>総長は、「多くの諸君に私の所見を聞いていただきたい。君達の質問にも答える。」ときりだし、“6月17日の機動隊導入問題”“医学部の処分問題”について所信を述べ、“機動隊導入問題”については「今回の責任は私にある。」と総長の責任を強調し、“医学部の処分学問題”については、「粒良問題は医学部へ差し戻す。他の処分学生は医学部教授会に申し出れば再調査を行なう。」との結論を述べた。</p> <p>こゝで議長団の福本が総長の発言を要約し、確認した。この後学生から大衆団交について質疑があったが総長は「大衆団交は大学の場ではやるべきでない。」旨を述べた。上記の総長の発言の間に学生側から激しいヤジ、怒号が飛び、総長は何度も「静粛に話を聞いて下さい。」と訴えた。</p>
16:13	<p>総長の疲労が激しく、これが心電図にあらわれた。このため佐々木助教授が議長団にそれを報告、青医連メンバーによる心電図確認が行なわれ総長は退席、事務局長室において応急手当を受けた。</p>
16:25	<p>大講堂内の学生は半数となった。粒良がハンドマイクを使い演説を行なう。</p>
16:40	<p>大講堂内に残った学生は、各学部代表で討議し、学生部長に次の要望書を提出した。学生部長は30分後に回答する旨を約束した。</p> <p style="text-align: center;">要望書</p> <p>（ 現在、大河内総長疲労のため総長と学生との話し合いが中断されています。 私達東大各学部学生および学内諸団体は総長が一時間以内に話し合いの再開に応じるよう要求します。 尚、その際、責任ある決定が行なえるよう総長、評議会の出席を求めます。</p> <p style="text-align: right;">代表団 6月28日 4時30分</p> <p style="text-align: center;">各学生 { 教養、法、経、文、理、工 自治会 { 農、医、教育各学部 代表 { 新聞研研究生、 { 経済学部大学院</p>
16:40	<p>総長は健康の回復せず医科研に戻る。 その直後佐々木助教授は議長団に対して、総長の容態を説明し、本日中に再び大学に戻ることはできない旨伝え、学生側がマイクを渡さないのでやむなく議長団から伝達してくれるよう依頼し、学生側はこれを了承した。</p>
16:50	<p>議長団の1人である館竜一郎経済学部教授は学生側議長団に大学としては本日の集会は終わったものと考えている旨伝え、学生側はこれを了承した。</p>

17:15	<p>学生側代表団から提出のあった要望書につき学生部長は直ちに学生委員会にはかり、まだ連絡可能な学部長の意向を伺った結果、学生部長室において学生側代表団に口頭で概ね次のような回答を行なった。</p> <p>①総長の容態が大学に帰れない状況であることは佐々木助教授から学生側の議長団に伝えた。</p> <p>②大学側としてこの集会が終わったと考えることは館教授から伝えた。</p> <p>③それで諸君の要望に応ずることは実際上できないので承願したい。</p> <p>④これは学生部長としての回答である。なお、この回答は学生委員会の意向も聞いての上のことである。</p> <p>この回答を学生側はメモして、読み上げ学生部長はこれを確認した。</p> <p>代表団退出のさい学生部長は、集会は終わったのだから早急で大講堂から退出するようにと指示した。</p>
17:30	<p>大講堂に残った反民青系学生は満場一致で大講堂に24時間居座りを決定し、その後約1,000人位が学内デモを行なう。</p>
18:00	<p>医学部において学部長声明および談話をもって去る3月11日付けで発表した粒良処分については処置前の状態に還元するとの発表を行なった。(医学部本館前に掲示)</p>
18:00頃	<p>学生委員会委員長高野教授、同副委員長館教授および数人の学生委員が学生側議長団に対して早く大講堂から退出するように指示および説得を行なった。</p>
18:15	<p>文学部、43青医連等の学生約250人位学内デモを行なう。</p>
19:30	<p>大講堂内には学生約150人位が残っている。</p>
20:00	<p>大講堂の学生は約40人位となる。</p>
20:14	<p>医学部中央館地下は学生零 同館3階は学生15～16人位がいる。</p>
22:30	<p>大講堂内は学生40人位がいる。</p> <p>(注) 28日夜「東大斗争全学共斗会議」結成を目指し、文学部スト実行委、教養学部、経済ストライキ実行委、経済大学院、新聞研などの学生が大講堂内で集会を開いた模様。</p>

6月29日(土)	8:00	<p>大講堂内には前日すわり込み集会後、泊り込んだ学生約10人、正面玄関の警備員控席付近に約10人位(見張り)がいる。</p>
	8:30	<p>法・工・育の各学部学生が1日ストに入った。</p>
	9:00	<p>大講堂内学生零、正面玄関には見張りの学生7～8人位がいる。</p>
	10:00	<p>大講堂において東大斗争全学共斗会議の学生が「大衆団交要求無期限集会」を開く。</p>
	10:45	<p>部局長会議開催(宇宙航研)</p>
	11:00	<p>法学部学生約100人位が銀杏並木において抗議集会を開く。</p>

11:30	工学部学生約 60 人位が大講堂前で集会、その後理学部－弥生門のコースでデモを行ない工学部 5 号館附近で午前 11 時 45 分頃解散した。
12:00	理学部学生約 30 人位が理学部 3 号館から出て銀杏並木の法学部学生の集会に合流した。 その後学生は約 200 人位となり午後零時 45 分頃から学内デモに移り、大講堂前－病院通り－医学部本館－総合図書館－正門－銀杏並木のコースで行進、法学部前で午後 1 時 10 分頃解散した。
12:05	部局長会議終了（宇宙航研）
12:19	学部長会議開催（宇宙航研）
13:10	学生自治会中央委員会が主催し、東院協・法・農・工・薬・理・育の各学部学生約 100 人位が大講堂前で集会を開き、その後病院通り－医学部中央館－医学部本館のコースで学内デモを行ない、午後 3 時 50 分頃総合図書館付近で解散した。 学部長会議終了（宇宙航研） 大講堂内において文学部スト実行委主催で日教組弁護団福田徹を講師に招き「学園斗争と団交権について」の講演が行なわれ、学生 50 人位が聴講している。
14:10	工学部学生約 330 人位が、工学部 7 号館－工学部 6 号館－理学部 1 号館－病院通り－医学部本館－赤門－正門－銀杏並木－大講堂前のコースでデモを行ない、午後 2 時 30 分頃工学部 7 号館付近で解散した。
15:30	大講堂内で全学決起集会が開かれている模様。
16:10	大講堂内の集会解散。 法学部学生 30 人位がアーケード前で集会を開く。
18:20	文学部倫理学生 7～8 人が大講堂前でシュプレヒコールを行なう。
19:00	医学部長声明をもって、上田内科事件に関する学生処分の内、粒良以外の 11 人の処分については、本人の申請があれば事情聴取を行なう用意がある旨発表。（医学部本館前に掲示）
21:00	大講堂ですわり込みの学生 20～30 人位が討論を行なっている。
22:30	大講堂内で東大斗争全学共斗会議主催で全東大総決起集会が開かれ、約 150 人位が集まり、各学部別の報告を行っている。 なお、この集会には他大学は参加しなかった模様。

6 月 30 日（日）	8:30	大講堂内には泊り込み学生約 50 人位がいる。
	9:30	大講堂正面玄関前で学生が立看板をかいている。 “当局・学生部のスパイ活動をバクロする”。
	10:20	大講堂内学生 50 人位がいる。第一会議室の入口扉に“M 4 の宿直室です”の貼紙がある。 学生が正面玄関前で立看板に“評議会、学生部のスパイ活動”、“当局業務日誌” No. 1 の見出しで 3 月 31 日からの事項を逐次

		かいている。
13:40		法学部学生が、アケードで同学部学生で同盟登校した学生に集会をマイクで呼びかけ、約 40 人位が集会を開き、午後 2 時 40 分頃からは各クラス討議に入る。
14:00		大講堂内では学生約 15 人位が 3 グループに分かれ雑談し、玄関付近には見張が 5 人いる。
18:30		庶務部職員が大講堂内を見廻ろうとしたが、学生に阻止された。しかし火気に特に注意するよう指示した。
22:40		大講堂内には泊り込み学生 5 人位 (内女子 1 人) がいる。

7 月 1 日 (月)	9:30	大講堂正面玄関警備員席前ガラス扉に下記の貼り紙が貼り出され、学生の見張り 4～5 人が入る者をチェックしている。 “入室の際は所属・氏名を、私服スパイの潜入がある”												
	9:30	大講堂正面 ^{グーベウ} 玄関前に立看板あり。 “学内公安、学生部を解体粉碎せよ” 国大協教授会による権力のすべて (その他国大協第 3 常置委の方針等が詳細に記されている。)												
	15:00	東大斗争全学共斗会議主催の総決起集会を大講堂内で開く。												
	16:00	医学部中央館の学生集合状況 <table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>地下 B02 号室</td> <td>M 3</td> <td>20 人位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地下 B03 号室</td> <td>M 2</td> <td>20 人位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 階 302 号室</td> <td></td> <td>20 人位</td> </tr> </table>	{	地下 B02 号室	M 3	20 人位		地下 B03 号室	M 2	20 人位		3 階 302 号室		20 人位
{	地下 B02 号室	M 3	20 人位											
	地下 B03 号室	M 2	20 人位											
	3 階 302 号室		20 人位											
	16:30	上田病院長から処分された研修生 4 人 (大村昭人、宮永豊、本田勝規、長田博昭) に対し、「処分につき異議の申し出があれば事情聴取する。」旨通知した。(郵送)												
	17:30	大講堂内の総決起集会に集合の学生は約 120～130 人位。												
	17:30	医学部学生約 30 人位が医学部中央館から「不当処分撤回、上田・豊川は辞任せよ」の横断幕をもちデモ、医学部本館－大講堂前－病院通りのコースで行進。午後 5 時 45 分頃医学部中央館に戻る。												
	18:30	大講堂内の総決起集会において文・養・医の各学部の提案により「本部封鎖実行委員会」が設けられ、直ちに集会を同実行委員会に切り替え次の事項を審議した。 <table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>① 7 月 5 日本部封鎖を目標として準備する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② その 1 つとして 7 月 2 日午後 4 時から総決起集会を開く。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 全学の盛り上りを図るため教養学部のスト権の確立を進める。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ 7 月 4 日の民青系の行動に着目する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ 6 月 15 日の大講堂占拠のような形はとらない。</td> </tr> </table>	{	① 7 月 5 日本部封鎖を目標として準備する。		② その 1 つとして 7 月 2 日午後 4 時から総決起集会を開く。		③ 全学の盛り上りを図るため教養学部のスト権の確立を進める。		④ 7 月 4 日の民青系の行動に着目する。		⑤ 6 月 15 日の大講堂占拠のような形はとらない。		
{	① 7 月 5 日本部封鎖を目標として準備する。													
	② その 1 つとして 7 月 2 日午後 4 時から総決起集会を開く。													
	③ 全学の盛り上りを図るため教養学部のスト権の確立を進める。													
	④ 7 月 4 日の民青系の行動に着目する。													
	⑤ 6 月 15 日の大講堂占拠のような形はとらない。													
	19:15	総長室に赤ヘルメット、角材姿の学生 2 人がきて、藤浪秘書室主任に、「我々はこの建物を管理している者だが、即時退去してくれ。」と申し入れた。藤浪秘書室主任が「現在同室の書籍類を取りまとめているので 2 時間位はかかる」と答えた。												

20:05	大講堂内の集会を終え、学生約 65 人位（白・赤・青・黄の各色ヘルメット着用者が多数）が大講堂を出てデモ。銀杏並木 - 正門 - 工学部 6 号館 - 工学部 4 号館 - 弥生門のコースで行進し、午後 8 時 30 分頃大講堂前で解散した。
-------	---

7月2日(火)	9:30	大講堂第2会議室前に「学生部職員の立入禁止、密告分子もメ」の貼り紙あり。
	10:07	学部長会議開催（医科研）
	11:35	大講堂内学生の姿なし。正面玄関の見張りの学生3人、第2会議4～5人がある。
	12:15	工学部総決起集会が開かれ、学生約30人位が集めた。（集会呼びかけ、物工3、計数3、原子力3、建築3、都市工4有志）
	12:46	学部長会議終了
	12:55	教育学部学生約37～38人位大講堂前をデモ。
	12:57	医学部学生約33人位が大講堂にデモ行進してきたが、そのまま大講堂内に入る。
	12:58	理学部大学院学生15人位が大講堂前をデモ。
	13:00	工学部大学院学生約50人位大講堂前をデモ。
	13:10	工学部総決起集会は終了、大講堂から学生約30人位がでる。
	16:00	東大斗争全学共闘会議の総決起集会が開かれる。
	17:40	文学部学生約30人位白ヘルメット姿で大講堂前広場をデモ、その後大講堂に入る 医学部学生1人が赤・黄色ヘルメット10ヶを大講堂に搬入する。
	19:00	白ヘルメット姿の学生3人が大講堂周辺を巡回後、庶務部入口前の変電塔をいぢっていたので、施設部職員が危険であると注意した。その後学生はさらに事務局各階廊下をうろろうしていた。
	20:00	大講堂内で集会中の学生は約220～230人位がいる模様。
	20:50	ヘルメット姿で角材をもった学生が、庶務部、経理部、学生部の事務室を廻り「職員は私物をもって退去するよう要求する。退去しなければ保障できない。」と云い、職員を大講堂から追い出し、大講堂を占拠する。
	21:00	庶務部職員は施設部に、経理部職員は器材調達課に、学生部職員は山上会議所にそれぞれ移転した。
21:05	この事態を各学部長および事務局長に電話連絡。	
21:10	施設部において大講堂の電話通信を停止した。	
21:15	民青系学生約20人位が、大講堂正面玄関前にきて、大講堂を占拠した学生に対し、この行為は反対であるとして激論を交している。	

(あきやま じゅんこ 東京大学文書館)

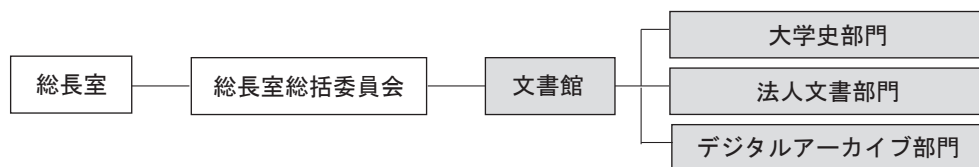
(ほしの あつこ 東京大学文書館)

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)

◆活動報告 (2018年1月～12月)

1. 組織、構成員

1-1. 組織



1-2. 文書館構成員一覧

- 羽田 正 (館長、1～3月)
- 大沢 真理 (館長、4月～)
- 吉見 俊哉 (副館長)
- 佐藤 慎一 (顧問)
- 森本 祥子 (准教授)
- 秋山 淳子 (特任助教)
- 宮本 隆史 (特任助教)
- 小川智瑞恵 (教務補佐員、1～3月)
- 小根山美鈴 (教務補佐員、1～3月、学術支援職員、4月～)
- 白川 栄美 (教務補佐員、1～3月、学術支援職員、4～5月)
- 星野 厚子 (学術支援職員、5月～)
- 村上こずえ (事務補佐員、1～3月、事務員、4月～)

1-3. 文書館運営委員会構成員一覧

- 羽田 正 (文書館館長・理事・副学長、1～3月)
- 大沢 真理 (文書館館長・大学執行役・副学長、4月～)
- 吉見 俊哉 (文書館副館長・情報学環教授)
- 堀 浩一 (総合図書館副館長・工学系研究科教授、1～3月)
- 菅原 克也 (総合図書館副館長・総合文化研究科教授、4月～)
- 大江 和彦 (健康と医学の博物館館長・医学系研究科教授)
- 小国 喜弘 (教育学研究科教授)
- 鈴木 淳 (人文社会系研究科教授)
- 諏訪 元 (総合研究博物館館長・同教授)
- 藤井 恵介 (工学系研究科教授、1～3月)
- 加藤 耕一 (工学系研究科教授、4月～)
- 岡本 拓司 (総合文化研究科教授)
- 玉造 潤史 (情報システム本部 / 理学系研究科准教授)
- 森本 祥子 (文書館准教授)
- 紺野 鉄二 (副理事)
- 鎌塚 聡 (総合企画部 / 総務部部長)
- 加藤 淳 (総合企画部副部長 / 総務部次長・本部広報課長)
- 溯村 剛司 (本部総務課長、1～3月)
- 山本 哲也 (本部総務課長、4月～)

1-4. 施設・設備・環境

1-4-1. 施設・設備

	本郷本館	柏分館
所在地	本郷キャンパス 医学部1号館 S109・S110・SC105・SC210	柏キャンパス 総合研究棟 609・620・653・659・661・663・671
収蔵室	2室（59㎡）	6室（約500㎡）
閲覧室	1室（4席） 開架書棚あり	1室（8席） 開架書棚あり
執務室	1室（職員3名）	2室（職員4名）
収蔵棚	固定式書架	固定式書架 新聞専用書架（4台） マップキャビネット（2台）
ドライキャビネット	—	2台（低湿用）
マイクロリーダー	1台（閲覧室）	—
写真撮影台	—	1台（閲覧室）
複写機	1台（執務室）	1台（執務室）
ブックスキャナー	1台（閲覧室）	1台（執務室）

1-4-2. エリア内環境

	本郷 S109	本郷 SC105	柏 609	柏 620	柏 653・659・661・ 663・671
床	ビニール		カーペット		
蛍光灯	美術・博物館用蛍光灯		LED		
窓（対策）	あり ブラインド閉		あり ブラインド・暗幕閉		
空調 （エアコン）	あり（換気扇あり） *稼働時の設定は25℃（ドライ）				
データロガー	1台	1台	3台	1台	各1台
除湿機	—		4台	—	各1台
消火器	二酸化炭素消火器 各1台				2台
清掃	業者による定期的清掃・学内環境整備チームによる書架清掃				
防虫・防カビ 対策	害虫トラップ設置・モニタリングによるIPM 「モルデナイベ」等使用による殺虫 *燻蒸設備設置予定				

1-5. 会議

1-5-1. 平成 30 年度東京大学文書館運営委員会

日時：2018 年 8 月 27 日 16:00～17:00

場所：安田講堂 2 階 大会議室

議事：(1) 平成 30 年度文書館運営委員会について

(2) 平成 29 年度活動報告

(3) 平成 30 年度活動計画

(4) 文書館人事について

(5) 「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」の一部改正に伴う東京大学文書館利用等規則の改正について

2. 業務・活動

2-1. 資料の受入・整理・公開

2-1-1. 資料の受入

(1) 大学法人文書（特定歴史公文書等）

2017 年度移管分：490 点

(2) 歴史資料等：15 件（資料群）

- ・ 中小左次関係資料（追加分として講義ノート、卒業記念帖等）
- ・ 佐藤信関関係資料（文学部教授会資料、総長補佐関係資料）
- ・ 鈴木淳関係資料（駒場寮廃止反対ピラ）
- ・ 藤吉日出男関係資料（本郷キャンパス写真、図面、各種記念品等）
- ・ 津田秀秋関係資料（昭和 17（1942）年の構内・人物写真）
- ・ 川瀬俊男関係資料（在学証明書、授業料領収証、書簡等）
- ・ 一瀬智司関係資料（学徒出陣壮行日章旗等）
- ・ 矢内原忠雄関係資料（追加分として講演メモ、聖書等）
- ・ 阿部貞市関係資料（帝大学生証、工学部講義ノート、一高関係資料等）
- ・ 駒場寮関係資料（寮委員会中央記録）
- ・ 市村宗武関係資料（学部長・副学長時代の日誌、資料）
- ・ 加藤（塩谷）明雄関係資料（第一高等学校・帝国大学時代のノート等）
- ・ ヨハネス・ルードビッヒ・ヤンソン関係資料（旧蔵書挟み込み封筒等）
- ・ 元教職員関係資料（昭和 23（1948）年の農学部演習林給料袋）
- ・ 史料室アルバム（社会情報研究所 40 周年式典写真他）

2-1-2. 資料公開

(1) 特定歴史公文書等：78 件

事務

S0032 庶務部委員会関連資料

S0036 学生部旧蔵資料

S0039 資料室（大学改革）

S0048 文部省在外研究員出張関係資料

S0056 博士学位授与者報告書類

S0107 財団法人東京大学総合研究会関係

S0264 部長会・連絡課長会

S0309 大学広報映像作成

S0310 総長選挙広報

S0311 報道機関対応

S0312 取材・撮影依頼対応

S0313 広報委員会

S0314 ホームページ運用・管理

- S0340 産学連携本部運営委員会
- S0341 本部棟 1F ロビー展示
- S0342 事務長会議
- S0343 統括長会議
- S0344 安田講堂・山上会館運営
- S0346 部局別職員組織状況表
- S0347 名誉教授懇談会
- S0348 防災対策委員会
- S0349 安全管理委員会
- S0350 環境安全本部会議
- S0351 安全衛生管理室長会議
- S0352 八の日会
- S0353 土地・施設等取得・譲渡
- S0354 御殿下記念館の管理・運営
- S0355 定員現員表
- S0356 現員簿
- S0357 講座及び学科目等の教員定員調
- S0358 ハラスメント防止委員会
- S0359 五月祭
- S0360 死亡叙位・叙勲申請
- S0361 総長補佐による人事関係ワーキンググループ
- S0362 総長選考（職員組合関係）
- S0366 学生団体設立・継続届
- S0367 学生部事務引継ファイル
- S0368 防火管理規程等綴
- S0369 外国学校等卒業学生特別選考
- S0370 入試実施委員会
- S0371 入試制度検討関係
- S0372 入試監理委員会
- S0375 入試教科委員会
- S0376 後期日程第2次学力試験
- S0377 入試追跡調査
- S0380 入学試験問題
- S0381 入学試験合格者名簿
- S0384 国立大学協会入試委員会
- S0385 国際化推進学部入試特別委員会（AO室）

（2）歴史資料等 17件

総長資料

- F0139 南原繁関係資料

教員資料

- F0067 田中学関係資料
- F0104 栗田寛関係資料
- F0131 今井登志喜関係資料

大学院・学部

- S0363 医学部教務委員会
- S0382 近代日本法制史料センター運営委員会
- S0386 医学教育国際協力研究センター
- S0387 インテリジェント・モデリング・ラボラトリー実行委員会
- S0388 工学系研究科・工学部 規則改正
- S0389 工学系男女共同参画委員会
- S0390 8大学工学部長会議
- S0393 附属病院 委員会関係
- S0394 附属病院 事故調査委員会
- S0395 附属病院 科長会・補佐会
- S0396 附属病院 執行諮問会議
- S0397 病院運営審議会
- S0398 附属病院 病院会議・病院運営会議
- S0399 附属病院 教室主任会議
- S0400 附属病院 22世紀医療センター

附置研究所

- S0321 地震研究所教授会
- S0322 地震研究所共同利用実績報告
- S0323 地震研究所定員関係
- S0324 地震予知研究協議会
- S0325 地震研究所紛争関係資料
- S0326 測地学審議会
- S0327 地球物理専門小委員会
- S0374 地震研究所内規類
- S0391 名誉教授懇談会

全学センター

- S0108 保健センター駒場支所資料
- S0364 低温センター規程等綴
- S0365 低温センター運営委員会

国際高等研究所

- S0345 サステイナビリティ学連携研究機構運営委員会

機構等

- S0082 東京大学史関係収集資料

- F0199 精神医学教室旧蔵資料

- F0227 土壤圏科学研究室旧蔵資料

- F0232 高橋信孝関係資料

学生資料

- F0032 蠟山長治郎資料

- F0063 金田乙弥関係資料

F0064 佐藤彦二郎関係資料
F0068 内田周平関係資料
F0069 菱刈隆永関係資料
F0148 堀俊蔵受講ノート
F0231 高久近信関係資料

その他

F0113 尾崎尚史寄託資料
F0128 床次竹二郎書簡
F0239 東京第一大学区開成学校開業式之図

2-1-3. 資料閲覧・レファレンス

- (1) 事務利用 3件
- (2) 一般利用 140件
- (3) レファレンス 81件

2-2. 視察・見学受入

4月9日 里見朋香理事視察（本郷）
工学系研究科（30名）視察（本郷）
4月23日 里見朋香理事視察（柏）
7月17日 経営企画部長、経営戦略課長視察（柏）
8月23日 東京工業大学（2名）視察（本郷）
9月18日 京都大学文書館（1名）視察（本郷）
9月19日 新潟市歴史文化課（1名）視察（本郷・柏）
10月3日 記録管理学会（2名）視察（柏）
10月15日 工学・情報理工学図書館（1名）視察（本郷）
福岡共同公文書館（1名）視察（本郷）
11月13日 百五十年史編纂準備ワーキンググループ（4名）視察（柏）
12月4日 北海道大学大学文書館（3名）視察（本郷）

2-3. 展示関係

2-3-1. 展示会、関連企画の実施

東京大学ホームカミングデイ

タイトル：東京大学文書館所蔵資料展示 学生時代

会期：2018年10月20日（土）

会場：東京大学安田講堂4階回廊

来場者：1,007名

展示資料：

- Die ersten Lectionen des deutschen Sprachunterrichts (大学南校編 1870年) (F0146)
- 石川動物学教科書 上巻 (F0113/02)
- 史学研究法 年代学：文学博士坪井九馬三述(受講ノート) (F0041/03)
- 上野博士 農業工学・農業工学 第二分冊 (F0116/S2/051・052)
- 経済学部卒業記念写真帖 大正14年3月 (F0025/S01/001)
- 〔医科大学医学科卒業証書〕 (F0033/02)
- 帝国大学一覽 (刊行物)
- 文部省准允 自明治十九年至明治二十年 (S0006/04)

- ・卒業記念東京大学法学部〔法学部卒業記念写真帖〕昭和37年3月（F0025/S01/0035）
- ・旧雨今雨（大正6年～15年アルバム委員）（F0025/S03/0040）
- ・本郷の学生生活（刊行物）
- ・駒場の学生生活（刊行物）
- ・〔第二十回東京帝国大学運動会馬術部、東京海軍乗馬会馬術競技大会資料：昭和九年八月十九日〕第20回学内大会記録（F0100/1）
- ・東大ダンス講習會 會員證（F0159/03）
- ・東京大学卒業アルバム 昭和41年3月（F0025/S01/0022）
- ・おもひで：医学部附属医院看護法講習科卒業記念写真帖 昭和7年（F0025/S01/0103）
- ・昭和十一年 東大卒記念アルバム（F0030/046）
- ・学生證〔第一工学部 澤邊弘 昭和23年入学 有効期限昭和23年4月～昭和26年3月〕（F0159/02）
- ・学生証、講義ノート（F0161）
- ・全共斗系ビラ（1）（F0164/01）
- ・東京大学卒業アルバム 昭和41年3月（F0025/S01/0022）

東京大学柏キャンパス一般公開

タイトル：知の蔵、文書館／BUNSHOKANです！

企画：展示「記録で読みとく『東大紛争』」

ガイドツアー「文書館ってどんなところ？」

会期：2018年10月26日（金）～27日（土）

会場：東京大学文書館柏分館

来場者：233名

展示資料：

- ・東大紛争写真2・4（F0102/0001・0002）
- ・東大当局の告示等（1）（F0164/04）
- ・〔東大紛争関係負傷者治療記録、報告、メモ類〕（S0108/0001）
- ・昭和44年1月10日「七学部集会」速記録〔6〕（S0032/SS09/0108）
- ・44.1.10 全学集会オリジナル（未編集）（オープンリール）（F0112/0001）
- ・44.1.10 全学集会オリジナル（会場直接録音）1～4（カセットテープ）（F0112/0002・0003）
- ・七学部代表団との「確認書」について（未定稿）（刊行物）
- ・学内紛争状況 昭43.12～44.2（S0308/SS001/001）
- ・紛争日誌（その1～4）自昭和43年3月12日至昭和44年3月26日（S0032/SS09/0122～0125）
- ・東大紛争写真集 安田講堂の攻防戦とその前後（S0087/0008）
- ・改革フォーラム（刊行物）
- ・大学問題シンポジウム報告書（刊行物）
- ・大学問題シンポジウム議事抄録 第2回・第3回（刊行物）
- ・全共斗系ビラ（1）・（2）（F0164/01～02）
- ・東京第一大学区開成学校開業式之図（F0239）
- ・教育勅語（菊花紋章入り収納箱）・教育勅語（S0046/01・02）
- ・〔恩賜の銀時計 阿久津國造〕（F0132）
- ・日記 赤門 大正十年（S0036/0179）
- ・諸方往復 明治二十二年（S0026/SS1/0279,0280）
- ・〔講義ノート〕（F0045/0006）
- ・石川動物学教科書 上巻（F0113/02）
- ・自大正十四年至昭和参年度 前田家ト土地交換書類 参考雑書（S0040/0031）
- ・五月祭 昭和16年～昭和26年（S0359/SS01/0001）
- ・職員進退録 明治36年 2冊の内（甲）（S0018/SS01/0035）

2-4. 出陳協力

米沢市上杉博物館 特別展「戊辰戦争と米沢」のため資料貸出

期間：9月6日～11月30日

貸出資料：・渡辺洪基肖像画 (F0002/310)

・米澤在留中公事扣之写 (F0002/10)

・米澤政府委任之書付米澤政府→渡邊清寿 (F0002/267/15)

国立近現代建築資料館 開館5周年記念企画展「明治期における官立高等教育施設の群像」
のため資料貸出

期間：10月12日～11月30日／12月21日～2019年3月15日(予定)

貸出資料：東京帝国大学 明治33年4月 (F0025/S03/0026)

2-5. 教育・研修事業

2017年度東京大学文書管理説明会(総務部総務課共催)

開催日：1月31日

参加者：55名

2018年度学習院大学大学院アーカイブズ学専攻アーカイブズ実習受入

期間：8月20日～8月24日、9月3日～9月7日

実習生：学習院大学大学院アーカイブズ学専攻アーカイブズ実習生3名

2-6. 学内連携事業

- ・「基盤研究(A) 矢内原忠雄学生問題研究所未発掘資料から見る1950年代の学生運動と若者意識の分析」(研究代表者 吉見俊哉) 科学研究費補助金、研究課題番号 25245058
- ・「研究成果公開促進費：1968～69年の大学紛争に関する多層的コミュニケーション検証アーカイブ」(研究代表者 吉見俊哉) 科学研究費補助金、研究課題番号 17HP8014
- ・「東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」平成29・30年度
- ・「150年史編纂における『学術資源としての大学の公共的価値創造』拠点形成」(東京大学百五十年史編纂準備ワーキンググループ) 平成29・30年度総長裁量経費

2-7. 学外連携事業

- ・国立科学博物館「科学者資料デジタルアーカイブの研究開発」(研究代表者 有賀暢迪)

2-8. 出版活動(広報活動)

2-8-1. 紀要

『東京大学史紀要』第36号、2018年3月

2-8-2. 文書館ニュース

『東京大学文書館ニュース』第60号、2018年3月

『東京大学文書館ニュース』第61号、2018年9月

『東京大学文書館紀要』投稿規定集

『東京大学文書館紀要』の編集等に関する規則

1. 目的

この規則は、東京大学文書館（以下「文書館」という。）の刊行する『東京大学文書館紀要』（以下『文書館紀要』という。）の編集等に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

2. 『文書館紀要』刊行の趣旨

『文書館紀要』は、文書館の業務と関連を有する諸学術分野に関する研究成果を公表し、もって文書館の活動の高度化と当該学術分野の研究の進展に資することを目的とする。文書館で業務に携わる教職員のほか、当該学術分野を研究する学内および学外の研究者に対して、研究成果を発表する機会を提供するものとする。

3. 編集責任者

文書館館長は、文書館の教職員から1名を選び、『文書館紀要』の編集責任者に委嘱する。

4. 編集委員会

『文書館紀要』の企画や査読等、編集に関わる重要な任務を行うため、文書館長のもとに文書館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）を置く。編集委員会の構成は、以下の通りとする。

- (1) 編集委員会の委員長は、編集責任者をもって充てる。
- (2) 編集委員会の委員は、学内および学外の専門家の中から、編集委員会委員長が委嘱する。

5. 掲載する論文の種類

『文書館紀要』が掲載するのは、東京大学史やアーカイブズ学等、文書館の業務と関連を有する諸学術分野に関する論考で、論文のほか、研究ノート、資料紹介、書評、報告等（以下「論文等」という。）を含むものとする。

6. 論文等を発表できる者

『文書館紀要』に論文等を発表できる者は、以下の通りとする。

- (1) 文書館の教職員
- (2) 編集委員会が執筆を依頼した者
- (3) 論文等を投稿し、編集委員会が審査のうえ掲載を認めた者。なお、投稿に関する規定は、別に定める。

7. 庶務

『文書館紀要』の編集等に関する庶務は、文書館事務室が担当する。

『東京大学文書館紀要』投稿要領

東京大学文書館は、以下の要領で『東京大学文書館紀要』（以下『文書館紀要』という。）に掲載する論文等の投稿を受け付けます。

1. 投稿できる者の範囲

『文書館紀要』は、投稿する者の国籍、年齢、学歴、所属を問いません。

2. 投稿できる原稿の種類と分量

投稿できる原稿の種類と分量は以下の通りとします。

- (1) 論文 …… 24,000 字以内
- (2) 研究ノート …… 16,000 字以内
- (3) 資料紹介 …… 32,000 字以内
- (4) 書評・報告等 …… 8,000 字以内

なお、図表や写真などは、いずれの種類の前稿においても字数に含めて計算し、全体の2割以内に収めてください。

3. 投稿の方法

投稿は随時受け付けます。下記の住所に、電子媒体と紙に出力した原稿1部、および下記の必要事項を記した申し込み用紙（書式は任意）を送ってください。なお、投稿に用いられた原稿は返却いたしませんのでご注意ください。

必要事項

- (1) 投稿者の氏名
- (2) 投稿者の所属
- (3) 投稿者の住所および連絡方法（電話および電子メールアドレス）
- (4) 投稿原稿の種類
- (5) 原稿の題名（和文および英文）

4. 投稿原稿の審査

投稿された原稿の採否は、編集委員会において審査し、決定します。なお、編集委員会が必要と認めた場合は、論文内容や表現の修正、および原稿の種類の変更を依頼する場合があります。

5. 著作権等について

『文書館紀要』に掲載された論文等の著作権は、著作者に帰属します。ただし、本誌の

増刷および電子化等の二次利用については、編集委員会の判断に従うものとします。

また、掲載された原稿は、東京大学文書館のホームページで公開されることがあります。
著者は、このことをあらかじめ承諾するものとします。

6. 校正について

著者校正は、原則として第2校（再校）までとします。

7. 謝礼等について

刊行時に、掲載号を3部および抜き刷り20部を贈呈します。なお、掲載料・原稿料は
支払いません。

8. 照会先

『文書館紀要』の投稿に関して不明なことがある場合は、下記にご照会下さい。

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文書館紀要編集委員会事務室

電話：03-5841-2077

FAX：03-5841-2036

メールアドレス：daigakus.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

『東京大学文書館紀要』執筆要領

1. 原稿の判型は A4 判、横書きまたは縦書きとし、完全原稿（電子媒体と印刷したものの両方）を提出する。
2. 原稿には申し込み用紙（書式は任意）を付し、次の事項を明記する。
 - (1) 投稿者の氏名
 - (2) 投稿者の所属
 - (3) 投稿者の住所および連絡方法（電話および電子メールアドレス）
 - (4) 投稿原稿の種類（論文、研究ノート、資料紹介、書評・報告等）
 - (5) 原稿の題名（和文および英文）
3. 本文の文体は簡潔で分かりやすい口語体を用いる。句読点は「、」「。」を使用する。漢字は原則として常用漢字を使用し、新仮名遣いとする。地名・人名・史料用語などはその限りでない。
4. 本文中の書名、誌名は二重かぎ括弧（『』）、雑誌論文名、記事名はかぎ括弧（「」）でつつむ。欧文書名および誌名はイタリック体とする。
5. 註は本文中の当該箇所の末尾に 1)、2) のように示し、文末にまとめて掲載する。記入例は以下の通りとする。
 - (1) 日本語文献
 - (本) 大西愛他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会、2003 年、34-36 頁。
 - (論文) 森本祥子「日本における養成課程と資格制度の提案」『アーカイブズ学研究』第 9 号、2008 年、36-38 頁。
 - (2) 外国語文献
 - (本) Jenkinson, Hilary, *A Manual of Archive Administration*, London, Lund Humphries, 1965, p. 23.
 - (論文) Cook, Terry, 'Evidence, memory, identity, and community: four shifting archival paradigms', *Archival Science*, vol. 13, 2013, pp. 98-99.
6. 図・表・写真は別紙・別ファイルとし、種類別の通し番号およびキャプション、掲載場所を必ず記す。挿入位置は、本文中に [] で [ここに図 1 を挿入] のように示す。
7. 画像については、そのまま印刷可能な明瞭なものとする。モノクロ、カラー共に解像度 350dpi 以上であることが望ましい。
8. 論文に使用する図・写真等については、執筆者において著作権所有者の許諾を得た上で投稿する。